This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no. 8

Japanese Canadian Manuscript Collection
Special Collections Division
UBC Library
Manuscripts section

Please Retain
Original Order

XXVII.

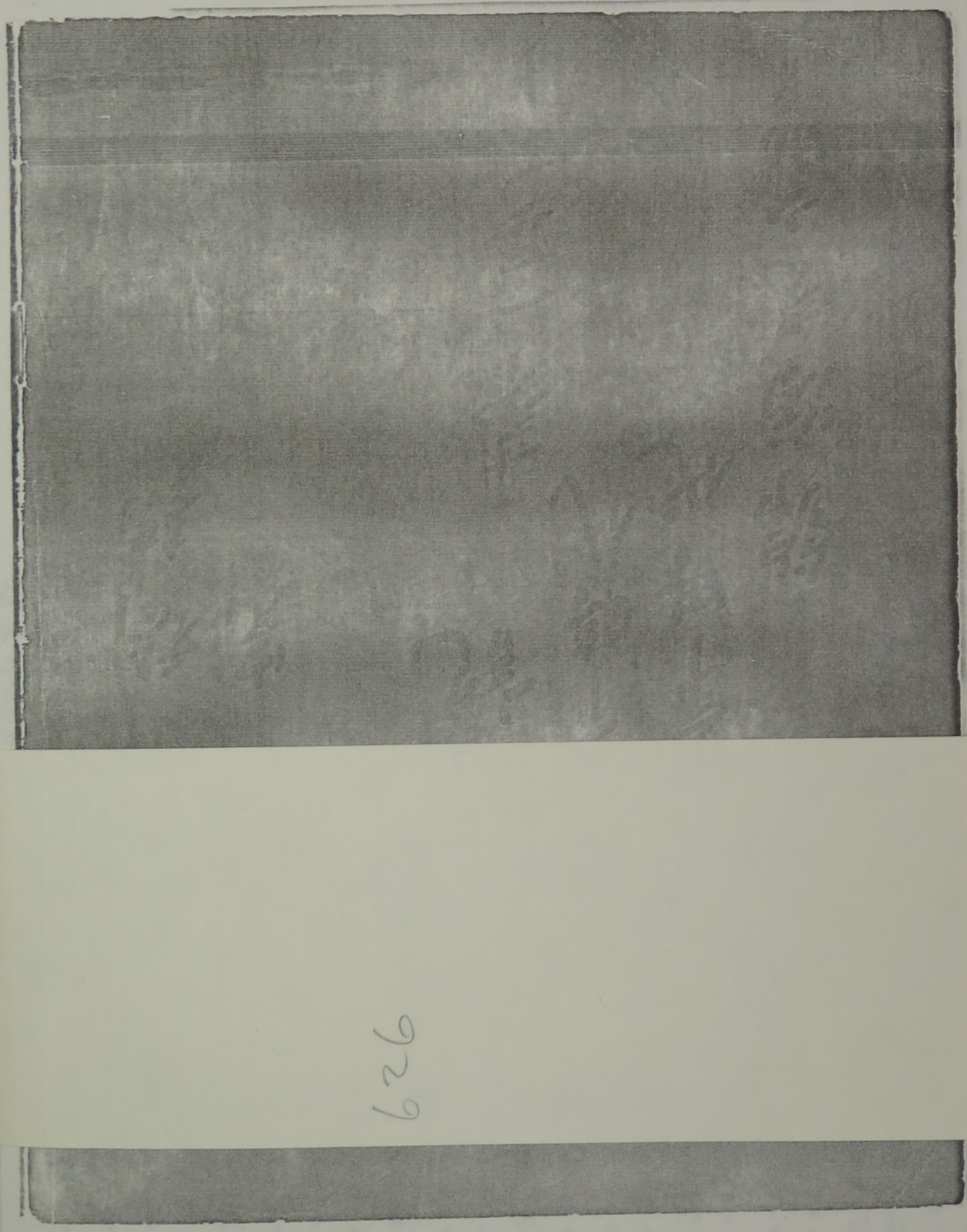
Omoide no ki, Dai 1-go: Shōnen jidai, Seinen jidai.

(My reminiscences, no.1: Childhood and Youth)

by Kōnosuke Nishikihama. Began drafting in 1925
and completed in 1930.

Page 1 - 46.

Sept. 7, 1981



626

Nishikihama, Kōnosuke

Ellerno.

思い出の記

少年時代

僕の父は僕等に対しては厳格の人であった。母は非常に寛容の人であった。
父は[illegible]の中に踏み入る程の愛、無限の愛を僕等に注いで呉れた。
母は非常に謙遜なる態度で、夕食が終ると僕等を膝の前に[illegible]
一時間位づゝ話をして聴かせる。それは大抵父母が若き頃から[illegible]
今日までの苦心の状態であり、僕等の将来について[illegible]子供の教育
と云ふ事について[illegible]ようなことであった。母の言ふところは自ら
[illegible]

[illegible]

Nishikihama, Konosuke

No.

2

3

は友達を集めて気焔を眞似をしておる。それでは駄目だ。母の心はまだ
「お前に通ぜんかし」と涙と共に言ふ。僕も悪いことをしたと思った。そして何時か目に
父の涙が宿ってゐた。親子の緊張した場面であった。

母の日さの教訓に依ってか 僕も頑張る気も出てきた。勉強も身につくように
なったと母は喜んで呉れた。人間と言ふものは子供の時分からでも賞められたり
喜こばれたりすると嬉しいのである。僕は小さいので目に見えたことは出来
ないと思ふけれども 飛び廻って何でもすると言って呉れ 母の兄さんは陶芸気だ
と言ふ。汽船のことをその頃陶芸気と言った。陶芸気とは良く機敏に動き
廻るからである。近所の人達もあの子は男だが御飯でも炊くし何でもする
学校ではお利口し あんな子はないと賞めてくれると母はことの外喜ぶ 母は常に
独裁独尊の人であるので自分の言ふ事がする事が一番よいと思ひ込んでゐる
ので 人から良く言はれたら真剣になって怒るし賞められるととても喜ぶので
ある。僕もこの信用を落さぬ様にと働いた。僕はこの時分から勤倹貯蓄
と言ふ言葉を覚えて趣味をもってゐた。或る日Nと言ふ家へ使ひに行った
その時おばさんが僕に五厘の印紙を張り付けた郵便預金帳を一枚くれた。
僕はその当時その預金帳を満す為に一生懸命になった。そして五十弐銭
の貯蓄が出来た。非常に嬉しかった。それからと言ふものは使いに行って貰った
お金や四夏張網へ行って働いて儲けたお金を集めて郵便貯金を続けた
僕は十六才の時このカナダに渡航する迄には六十七円位の通帳を持って
楽しみにしてゐた。大正七年一度帰った時母は僕に「妹に何か土産をやって
呉れ」と言ったので妹も自分と同じ貯蓄の精神を徹底させておいてやらふと
それには自分が細かく苦心して仕揚げた子供時代の預金帳をその儘呉
へるのが最も有意義だと思ったので その通帳を出してもらって全部を妹へ
と言った。その時母は気の毒そうな顔をして 僕を見守って聞く

「その預金帳は定めし楽しき趣味をもって造られたものである事は この母も充分
承知してゐた。親として子供が楽しんでゐた貯金は成るたけその儘にして置いてやり
たかったが 或る年金廻りが悪い事が出来てその時この母が出して使わせてもらった」
僕は聞いて残念に思った。母は尚も気の毒だと言ふ顔をしてゐた。僕はその
預金は六年後如何程の額になってゐたか見たくてならなかった

春まだ浅き二月 新築中のアメリカの学校が立派に出来上った。そして県知事
群長 海外協会長と言った立派な人達が沢山出席して来て盛大な落成式
が挙行され 演では餅蒔 花火等で近郊近所の村からも多数の人出で
旺盛なる式が張られ 寄附者にはその金額によって立派な金盃が県知事から
下った。僕の妻となったSの父などは その当時如何病院で成功していたとの事で多数
の寄附をしてゐた。S家のその日の顔は一段と美しく見えた。僕は思った「世の中の人
達よ。人望家よ。人格者よ」と皆から讃へられるけれども 役者は又皆金持ち
であり その使用如何に依ってその人達の人的資格の多くはきまるのではないかと
僕の第六年生の修業課目はこの新校舎で続き初められた

僕の兄も又小学校時代から学課がよく出来た。小学校四年を通して級の首
席を占めていたと言ふ。和田の商業科に入ってから成績がよかったが 急に退校する
に至った。先生は非常におしみ友人に惜しく幾回も思ひ止まらせようとして言って
呉れた。兄も学校が好きであった行きたかったと言ってゐた。しかし家事はこれを
許さなかった。そして惜しくも断念したのである。ふ一人に渡ってから書を読む楽し
み。僕と異なり非常に記憶力が強く それで萬年暦と言はれる位何でも
知ってゐる。そうした兄が或る日僕に手紙をくれた 次の様に書いてあった「わしは
大きくなる迄学校に通いたかった しかし父母を前にして家事の為に許され
なかった。之に許は身分である。自分の志す所で如何程にでも勉強出来る

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

してゐた。弱小の僕も許されて入会した その時この青年同志会の会員で僕は最年少者であった それで僕の青年会に対する希望條件は失望満足と幾分異ってゐた 彼等はこの青年同志会なるものは若人の唯集りの場所であり 村に大きな出来事即ち漁船の遭難又は大火事等々の際は青年が飛び出して働き又は前述せし如く冬閑期にはお互に面白く遊ぶ事などで酒を飲めば花札遊びもできると言ふ様になってゐたのである 僕はその考へ方とは異なるものを有してゐた 即ち現代[illegible]武士道の多くの場所は面白かつ遊び場となってをり 多くの青年が最も修養期間に忘れてゐるこの各期をそこに過してゐる事は誠に遺憾の極みである 次代社会の建設者を以て任ずる青年は今の時に於て青年らしい修養をなすべきである

会長は口に青年の向上発展と云っているが 良き修養を積むことなくしてその人の向上発展は望まれず 其の進歩のあるべき筈がない 僕は「青年とは修養時代の名称なり」と言った そして「青年よ その歩みよし遅くとも行かば千里の海を見む「後まず精進することそ次代社会を背負ふ青年の使命なり 「青年とは字の如く青々と潔白にして濁れる社会の内容を見ながら唯自分の進まんとする方向に進むなり その進まんとする熱度に一段の熱を加ふべし」 僕は青年会を確立させるのであったら 断した青年の修養団体を造って見たかった

僕の青年らしい考へ方へは其の当時の青年輩には解り喜ばれなかった 時は丁度欧州大戦がセルビヤ国の一青年に依って其の幕は切って落された頃であり カナダも参戦し 在加同胞の中でも出征義勇団を組織して居り 吾等又その出征軍人家族扶助会を組織して寄附を募集してゐた 僕の方も戦雲景気で物價が一段の飛躍をなし 鮭は七十五仙から一弗位に昇し 好かへとしてゐた 誠に漁者にも恵まれた時代であったが 生活の餘裕を得る[illegible]人間の生活の様式で緩んできた 須校の[illegible]は日本内地の[illegible]と

変りなく 漁があれば一族一同喜びの餘り その衣食住は贅澤に流れ易く 冬が来て不況の訪れる時は誠に淋しい暮をするのである 殊に須校の同胞の大部分はキャナリー附属の家屋に住し漁業をすることに依って その附属キャナリーに魚を売る爲 家賃を支拂ふ必要がなかった 又キャナリーの方でも夏ともなれば彼等は皆魚をその附属キャナリーに売ることを前提として冬籠りする頃から彼等に食料 アミ等を支給してゐた それで手に一弗の貯えなくとも冬を越され 陽気な暮しをしてゐた 僕は之れをその日暮しの生活と言ってゐた そして斯様な自分達もこの暮しの生活にひたる様になっては愈々駄目だと思った 自分は将来キャナリー附属ハウスになど住んで漁をすると言ふ様なことは考へてなかった 独力を以て一家を建築して そこに楽しい家庭を造るべきだ 又在加同胞のその日暮しの生活は決して将来の大をなす所以でない 僕は世に送った年紀の中に斯様なことがあった「自分は渡航する時には必ず金儲けして拾年以内に帰国する と書いたが このカナダに渡って来て遂に三年の星霜を[illegible]したるも そこには何等顯しき見るべきものがない 唯今自分がこのカナダに於て多くの人達の中に混り人間らしい人間となって見たいと考へる僕になってきた」と言ふ意味を含んだものであった そこには固き基礎を造った永住生活に入る考へ方に僕の心が変って来てゐる 多くの青年が浮いた調子で遊んでゐるのを見て 僕には[illegible]心に堪へぬものがあった その頃から排斥の声が高かった 金を貯めて日本へ帰るのもよい 而しそれもできずしてその日暮しに流れ若く人々はこのカナダの地に父母を[illegible]ければ 心ある同胞の邪魔にこそなれ 決して為になるものではないと共に日本に於ても海外同胞として有難くないものでなければならない これ等の者こそ排斥さるべき 僕は「堅実なる歩みに入るのだ 将来性のある」と私語してゐた

欧州戦乱が長期に入り未だ戦勝の色も見えない大正六年の秋に至って

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

File no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

…面白く働いて見たいと云った言葉は今も尚忘れられないのである。而して
…は一生懸命に働いた誠心誠意天の使命と思って帰る呉隆に
うちは僕に言った「お前は歳正に二十才已れと結婚して五ヶ年今は渡を
さしても異存一人前と思われる腕になった日本から帰って来たら又共に働
…ようで居て呉れしかし已れはお前の様な男を仕上げたのが自慢である。
時に随分無理も言ったがなり…追懐談をして自分からも…
…僕が帰国したと言った僕が出帆間際して弟にや使を出して妻には
…て来るから悪い所へなどおびに行くな。しっかり英語を勉強
…と云った頼りのない弟を可哀想に思って…
…拡張されたフルサーや教育所の設備よ。…大洋の水清い田畑丸は
名古屋支一行と着せて今静かに大平洋を懐しの日吉へと近づき
つゝある。船は予定の如く十二月八日横浜に着いた翌日僕等は
八十幾名乗客を振り出しに観光の途についた二日目の東京見物を
終った一日五時的侍人大隈侯爵の招待をうけて早稲田の私邸にて
は馳走になった大隈侯はその時…を喜寿の席近く運んで親
しく一場の挨拶をした。その論旨は「現在の五界は大動乱の巷と化し
て居るがこの戦争の起因は決して一ルマニア小国の皇太子が殺された
ことによって起った戦争でない即ちこれは欧州に於ての二大民族戦争
である一はアングロサクソンのイギリスと一はゲルマン民族のドイツとが相関
…して一方的に勝利を博して欧州征西覇をなさとするものである。而して
…に於て現代に於ても将又将来に於ても民族のあらん限りこの争
…は絶ゆることのと思はなければならない若しそれ将来に於て五界戦争
…うんか云ふ時は各民族の骨肉戦で頭小民族は亡び強者適存の
…に伴って五界は進んで行くものと思って差支ない」と…
…放郷へ帰るにこそ…

…衆せさるべからず見るところに依れば…は皆青年で若々しい元気に
身体を持ってある今度西国を視回したのも唯に母国の風光に…
ばかりではない大いに立派な妻君を迎えて…新天地に活躍すべく
…弱な妻君は姑御に実人でも…為に…
自分はこの年まで子供がない…錦を飾る大きな立派な体躯でなかったから
…祭に…と自分の子供に訓すが如く話して
くれた。それから西下して名古屋伊勢…大阪…神戸須磨明石で
名所古跡を訪ねて約二週…に及ぶ観光は僕の一生の中の思出の数々を
味ったもの、一つでなければならない横浜へ上陸した時は大雪僕は十日位前に
を見物して帰ることになってあるからと母に手紙を出して置いたが自分が毎日楽
しい珍らしい日を繰り返してゐて日の立ち行くも知れないまに…
帰りたいと思ふ位であった故郷では母やNの妹では今日か明日かと毎日の
…に僕の帰りを待っていたのである僕の帰りが…遅いので遂に兄は
京都まで僕を迎えに来た一度その日僕等は大阪を過ぎて神戸の方へ
下りつゝあったのである。その夜七條…の…家の二階で兄は…長松枝が
…と言ふのでは驚走になって改…なっていれと云ふ事であった
そして遺憾してゐたのか定が…れてゐるのに無理にそのまゝ立った際…
の上で兄を抱いてしまった翌日僕等は神戸驛前の神戸旅館に
宿泊してあるが僕に電話がかゝってきた…僕が電報…
…きるとのない友人は「…夜の…よ」なぞ笑談を言ってゐたが…
に出た時それは兄の声ではないか…そして兄は「京都へ迎えに行った事
自分が…残した事…聞いては…待ってるから明朝までに帰うなければいかん
い」と命令的に言ってゐた僕はとにかく兄の休んでいる…旅館を訪ねる
…と言って電話を切った。…兄の…は…に…れてゐて…
もできない故郷へ帰るにこそ…

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Nishikihama, Konosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

H君T君等が青年会を確立せんとして居た。そして僕にも来て一臂押して呉れと言って来た 僕の今の身は花が実入りる仕事は到底できないと思った しかしS夫人は少し外へ出て面白く遊んだら運動にもなり又気も晴々とするかも知れんから青年会の方へも出入りした方がよいと言って居た。遂に彼知郎士道青年会が多数の会員を得て盛大な祭会式を挙げ 幹部の陣営も整へるに至った 初代会長にはH君副会長にO君 僕は幹事として仕事をすることになった 高嶋信太郎語学校々長を顧問に戴いた吾等青年会は名実共にカナダに於ける邦人青年会の最高峰でなくてはならなかった。僕は幹事として機関誌ライオンの発刊を企画して総会の協賛を得た 次来青年会な財源の許すかぎり会誌発刊を続けて来たのであるが とかく青年と言ふものは熱し易く冷め易い 僕達も時天をも突かんの概があった青年会も僕等が後退するに至って稍々緩みを生じてきた しかし大体に於て殖民地に於ける青年修養団体としては模範的なものであった

毎週土曜日夜七時より会員の演説会が催される。飛び入り式に会員が自己の抱負や意見を発表し各々雄弁を振ふ 嵌で高嶋先生に各一人々々に互って其の演説の内容の組合方式や弁舌に現れる熱心度ゼスチアー 音声等に付いて注意して呉れて 先生独特の講演が必ずあるのである。又社会的にはリチモンド区の修理的範囲に備せない そして邦人の毎日最も多く交通するキヤナリーサイドのロードに坂散ロードを架設して鄕村在住民に喜ばれたり、精神的には悪風排除に努力するばかりでなく 鄕村の風致副計に当って賭博撲滅運動を興す等、相当人心に刺戟を与へたものであると共に青年自からの修養には熱心してゐた。次来然なで社会的に乗り出し相当な功績を挙げ得たと共に自己の礎を確立して来たものは多く この当時の

青年会員であったことは確である 又当時青年会の指導精神として左記の團歌が高々と合唱されたものだ

(一)
仰げば高きライオンの
峰に積りし雪白く
望めば深しジョージヤの
海に湛へる水清し
フレザー河畔に集まれる
吾等青年健男子

(二)
心を磨き身を鍛へ
悪風排除に努めんと
正義の草鞋踏みしめて
進みて止まぬ勇気さて
フレザー河畔に集まれる
吾等青年健男子

(三)
カナダ市民の本分を
努め守りて怠らず
斯くて祖國の美風をば
外国人に示さんと
フレザー河畔に集まれる
吾等青年健男子

高嶋先生の作詩である

僕はこの時より将来大和民族の発展に其の地に永住することで故り排斥の根底を一掃し得るも又この途を進める外方法がないと思ってゐた 僕は或る女と結婚したり 必ずその一路に向って突進して見よう 或はNの両親は反対するかも知れんが 僕は決して日本を見捨てるものでない この路は僕の如き青年のとるべき使命であり 又益々一層大ならしめる所以であると思ってゐる 僕は苦の中に呻吟しつつ、青年時代の修養を積むことを忘れず怠らず社会的に乗出す心構へをさへ造りつつあった 斯くて星霜送る事二年 大正十年の春に至って再び苦しい病魔に見舞はれた僕はこの時こそ萬事休すと固い観念の目を閉じた

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

36

唯運命の律に任せる外ないと思った 斯うなってくると人間と云ふものは病の苦みも何もかも与へない唯浮雲の上を彷徨する様なものである。しかし多少でも良くなると又何でも良くならなければならないと慾がついて苦しい それから僕は医者の勧めで扁桃腺の手術を受けたが それから又起りくる脳神経衰弱 人は夜の床に這入って白川夜舟の高鼾熟睡しておる。僕は悲しい 僕には夜の訪れは又となく懼しく悩ましい 僕は努めて安眠せんとすれ共 如何にしても眠られ無い。彼是を思っては枕が大きく重くなる 稀々眠りと思へば坂路より底知れぬ谷底に曳き込まれんとする如き悪夢に襲はれる。暁の明るさがどうやら訪れんとして眠る事が多かった 僕は夏になって兄と働いて見た しかし身體の疲れはその仕事は兄の為になってゐる様に思はれて楽しみもない 元より能率を上げるなんて事は思ひも寄らない。僕は決心した 斯くては自分は唯死を待つのみだ 早く日本へ帰って京都大学へでも行き 病の根本を尋ねて全癒する迄日本に留まらう。兄に話をして見た 兄は「病は氣長く兄の家で保養せよ（その頃兄の嫁は渡航して居た）日本へ帰ってもNの家は義理の中 その中で病みの身が居合はば一層脳を悪くする 又日本へ帰っても徴兵の問題もある。Nの親達は何と云ふか」等言って僕の帰郷を引留めんとしてゐた しかし僕の決心は変らなかった 身體が恢復して徴兵に応ぜられる様になればこの上ない喜びだ たとへNの親が何と言ったとて それだから僕は初めから自分の自由を尊重して欲しいと言ってゐたのだ 僕は何とかしてこの病魔を征服して男らしい愉快な働きがして見たいと祈ったのである

医者は唯何事も考へることなくして居合せ。煙草 読書は一切止めなければならないと宣言した 僕の楽しみは又一つ無くなった 僕は日本にゐた頃の目的であった しかし それすら今の自分達は自由にならんと思はれる。兄の言ふことは 又真実かも知れない 僕は初めからNの家の養子

37

となる事は好んでなかった 自分が病みをして帰国する義父母の為に僕を迎へるに冷たい様なれば寧ろ自分の望む所である 僕を心の底から愛して迎へて呉れる母がある。物質的慾望より目を閉じた僕には今の際暖かい情熱が欲しい 僕の母は確に待っていてくれ 僕はこの冬必ず帰る。この冬帰らなければ再び悲しい神経衰弱の為に僕の一命は確に葬られるであらう 嘘ぢゃ 僕は又この冬Sさん等のお世話になって 病床に暮したくない 金はなくとも帰って心の病みを癒して来るのだ 兄が何と言ってもNの父が如何考へて居られても 人目にはさ程病みしとも見えぬ 僕は近所の人達からも元気を出して遊びに廻れと言はれる。僕は陽気で青年会場に行く外行先きがない これ迄の僕には未だ一度も女性について青春を抱いたこともない 唯日本訪問中二三ヶ所遊び廻ったに過ぎない 僕の日本行きが大体近所の人達にも知られてゐた 病気を癒すと云ふ名目であるが 必ず迎妻の為であらう 僕の妻となる人はNの家で確な話が出来てゐると言ふ人もある 僕は唯笑ってゐた

その年の秋十一月二十六日暴れ狂ふ西風強き夕方 ビクトリア港を出帆のハワイ丸に乗込んで一路帰国の旅についた 鴎の群は羽翼を空高く拡げて暴風に対抗して尚ほその翔には充分の余裕を残してゐる如くに見える それに僕には光りなく西山に沈みゆく日の如し 元気もなければ明日の天も分らず 言も覗せない程に消へゆく姿 そのまゝである 身の興奮は堆口を結び 考へることもなく 何事かを思案する様 友は来って元気よく語る 嬉しかるべき筈の帰国の旅の出帆も病み帰る者の心に如何程の楽みやある 三年前のあの溌剌として元気に溢れた帰国と思ひ較べて 今日自分は淋しい日本へ帰って充分元気をとり戻し以前の様な姿になってゐなくば

再びこのカナンの地を踏ます―神よ 我が龍王の氏神様よ 今一度吾れに愉快な日を迎え躍進させる日を恵み給へよ」と祈願暫時ありし船中のつれなさに友人は笑談に日を過す 船は愈々進みて母国は近し友は迎妻の念を設けども吾れ失鳴せず 友は再渡渡支の画策を論ずれども吾れに希望なし 神は如何にしてこの病者を救けて再び希望の日を来らしめるや 横浜港の第三突堤には人山を築いて我がハワイ丸の入港を待ってゐる。幾春秋の奮闘の中に数々の苦辛 それ等と悲く戦い遂に堪へ凌いで今喜びのその中に健かにして父帰る又兄きまを出迎える人々である 船は日没の突堤に静かに横つけとなれば 梯子は下されて開かれより来る宿屋の客引と上陸せんとする船客とで暫し鏡らが如き賑ひと混雑とを呈してゐた。稍々混雑も遠のきたる頃 友人と共にオーバーの前をきつしりと閉じ 俯向き加減にて上陸せんとする青年あり無口にして多くを語らず唯考へに沈み耽けってゐる。友人は長の船中の怠慢を今夜の上陸に依って癒さすやと語ってゐる。そして伊勢崎町の夜の賑ひの中に織り込まれて行った 翌日は東京見物の案内をせよと友に誘はるゝまゝに 荷歩みも大儀な思ひを感じながらも一行に参加したが自分には東京見物にも何等の興味も湧いてこなかった

僕の期待に反せず郷里では母を初め親族の人達は僕の病気に就いて非常に心配して居って呉れた 汽船はその日の朝御坊港へ着くのが荒れの為に此才に入港した 丁の母達は御坊の方へ出迎えに出て顔が見えない 僕は親達が心配してくれた程にも元気を失せずに帰って来た事を喜んで呉れた。僕が家に着くと共に病の経過を語った 父御前には燈をつけて祖先の霊に対して帰朝の報告をなし 唯黙々として過ぎ越し方の人に言い得ざりし心労を思ひ浮べて涙ぐむのであった。僕はその責任者となって多大の希望を抱いて渡航せしに 許らざりし病魔にみいらる

しかれども それに伏せず 今日祖先の前に帰り得たり 祖先の霊には僕に今様如何なる他に活躍するにしても 先ず吾れに健かなる身体を与へかし再び祥った養父母や生みの母には「僕は出来るだけ早く京都の方へ行って大学で診療してもらってくる。そして自分の身が總ての労働に堪へ得ることが出来ると云ふ医師の確認を得たとしたら 僕はこれ位嬉しいことはないそうしたら僕は一大奮闘して再びカナダに渡航するであらふ」と語ったのである。僕が帰って来てから四五日経って或る夕方 養母は早くも僕に迎妻を説き初めた。そして養母には心あたりの娘ありとなし 諦めて僕の賛成を求めるに急である。而し僕は今迎妻どころでない 如何にしてこの衰弱せる身を復活させるべきか 朝に夕べに神仏に祈ってゐるのではないか 僕は養母のその話を断るに一先ず年末も近づけば明日にでも上京して大学で診察を享ける考へである」からと語れば養母は僕の同行すると云ふ。二人は翌日京都に来り大学にて信頼し得る診察をうけたのである。僕の脳神経衰弱は胃が弱って居た為に起ったものに扁桃腺が閉に依り過多の血液を流出さした為であった それで第一急いで胃を強壮ならしめることであった それには適度の運動と静かなる療養を要すとあった。そして父母全快確なりと言ってくれた 僕の喜びはたとへ様ないものであった それから一ヶ月近くに亘って毎日朝は適宜晝食後は京都の古き名所古跡を適度の運動として毎日の日課に劃当て見物旁々歩き廻った

養母は一ヶ月程して帰っていった 僕の病気が大係よくなると云ふ安心と喜びとをもって！ 養母が帰ってから僕はできるだけ歩き廻った。

正月も押し迫った二十八日の朝 僕は郷里に帰ることになった 大阪に着いたのがその日の午后で紀州行の汽船は其の夜一時頃出して川口を出する 僕はその船に乗って夜の九時に比井港に着いたが 暗い晩で

Nishikihama, Kōnosuke

File no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Kōde no ki. Dai 2 ... Shōwa ...

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

と説くが僕は確答を与へない　一日養父は僕に「今日は親族の伯父母皆呼んでこい　お前の嫁の話をするのだから」僕は「誰れか心当りでもあるのですか」と尋ねたら「それは内の母も考へてゐる事だし　お前にも考へがあるだらう　しかしこの家は本家だから勝手にゆかぬ　親族の意見も容れなければならん　お前もこの養子になった時で皆が来て決めたのだから」僕はむつかしくなって来たと思った　斯うして僕の自由は遂に縛られてゆくのかと思った　皆の親族が集った　その時養父は愈々病気も全快したし　外の友達は皆嫁を貰って渡航するのに内では一人淋しく渡航はさせたくない　今度は病気を治して来たのだから決して左様な心配はいらんと本人が言っているが嫁をとるにも歳には最早不足はない　今別れては又何時の事かと思って集[?]に［なって貰った］られる」と挨拶した　Cの伯父は「それでは兄弟は之れと言ふ候補者を見定めてゐるのか」と尋ねた　養父はまだ無いと言ふ　Oの伯父は「それではいかん　この母は如何思ってゐるか」と尋ねた　養母は答へない　養父はそれで自分はこう考へる　養子は自分の方から来てもらったのだから嫁は養母の方からと思ふと言った　養母の方には僕の妻となるべき年輩の娘があった　そして世間では確にあの娘はNの嫁さんになるのだと言ってゐた　又その娘は縫物屋へ行っても僕達から冷やかされて赤くなっていたと言ふ

その時養母は左様な義理立てはせぬ方がよい　わしは決して自分の身内の者をこの嫁にしようとは思っていない　唯自分は一人の子は如何かと思ふのであるが　その娘の母がこの内で長く使って（下女として）ゐたので気の毒よく知ってゐる　あれの子であればと思ふのだがと言った　伯父達はそれもよからう　して血統は如何と言ふことになった　血統を睨み合せて合格して　僕の意見はと来た　僕は餘り進まぬと言った　しかし養母は是非と言ふのであればと言った　この呼吸を飲みこんだ伯父はそれより養母方の娘はよいではないかと言ふ　外の伯父母は皆養母に義理を

立てなければと思ふと共に養母が見立た娘は僕は嫌いだと言ふのだから尚さらである　それに注めて一度問合せるかと言ふ事になりNは内から別れた第二の伯父は全権となって出懸けることになって　それでその返事を待って今一度寄合ふことを申合せて散会した　丁度その頃大阪に出て居ったので電報で問合せたが三日にして断って来た　僕は元々義理合いの為に結婚は望しくないと思ってゐた　杏命嫁の話さないのだ　僕は気軽な気持ちで友人達と共に外の娘の所へ遊びにも行った　そして自分の鋭い観察をそれ等の一人一人の娘達に加へて見たが　自分の将来の伴侶となる様な娘は見当らなかった

カナダから帰ったと言ふ自分が須村で出帆の日初めて会った而して又村へ帰時款合せた娘　正月の朝祖母を失った悲しい娘の内一　それから遊びに行った　その内は今は責任者とてない　その娘は年長者で従妹二人と伯父に寄る　餘り仕事でしない人と共に暮してゐた　僕は常に自分の座みし当時思って　人の情の程を有難くも感じてゐたので　吾れ又他人が逆境にあって悲しむ時同情せざるを得ない様な気持ちが湧いてくるのである　遂に僕はこの娘の内で火を囲みながら語り合へば娘も小さい時からの境遇方の苦労を語るのであった　僕はこの娘を自分の妻としてもよいのではないかと思ってゐた　一度母に話をして見ようかと思って丁の母に語った　母は手に当目である　特に僕の病気上りの気持ちを害せぬ様に柔しく一寸なく賛成してくれた　僕は再び北米の地に渡航するにはあの様な娘がよいと思ふと言った　毎朝食前に父母の墓詣りする僕は　その帰りにOの伯父を訪ねた　そして又嫁の話がそこでもあった　僕は養母の言ふ娘娶る事になるかも知れんが僕は嫌いだと言った　伯父は外にないかと言ふ　僕はあると答へた　そして丁の母に話した通りの事を言った　伯父は「君は目がある　あれならば本家の嫁によからう　乙れ[?]にもあの娘を欲[?]

Nishikihama, Kōnosuke

Dai 2-shō: Sōnen-ki, Dai 2-wa: Sōnen no Ki

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

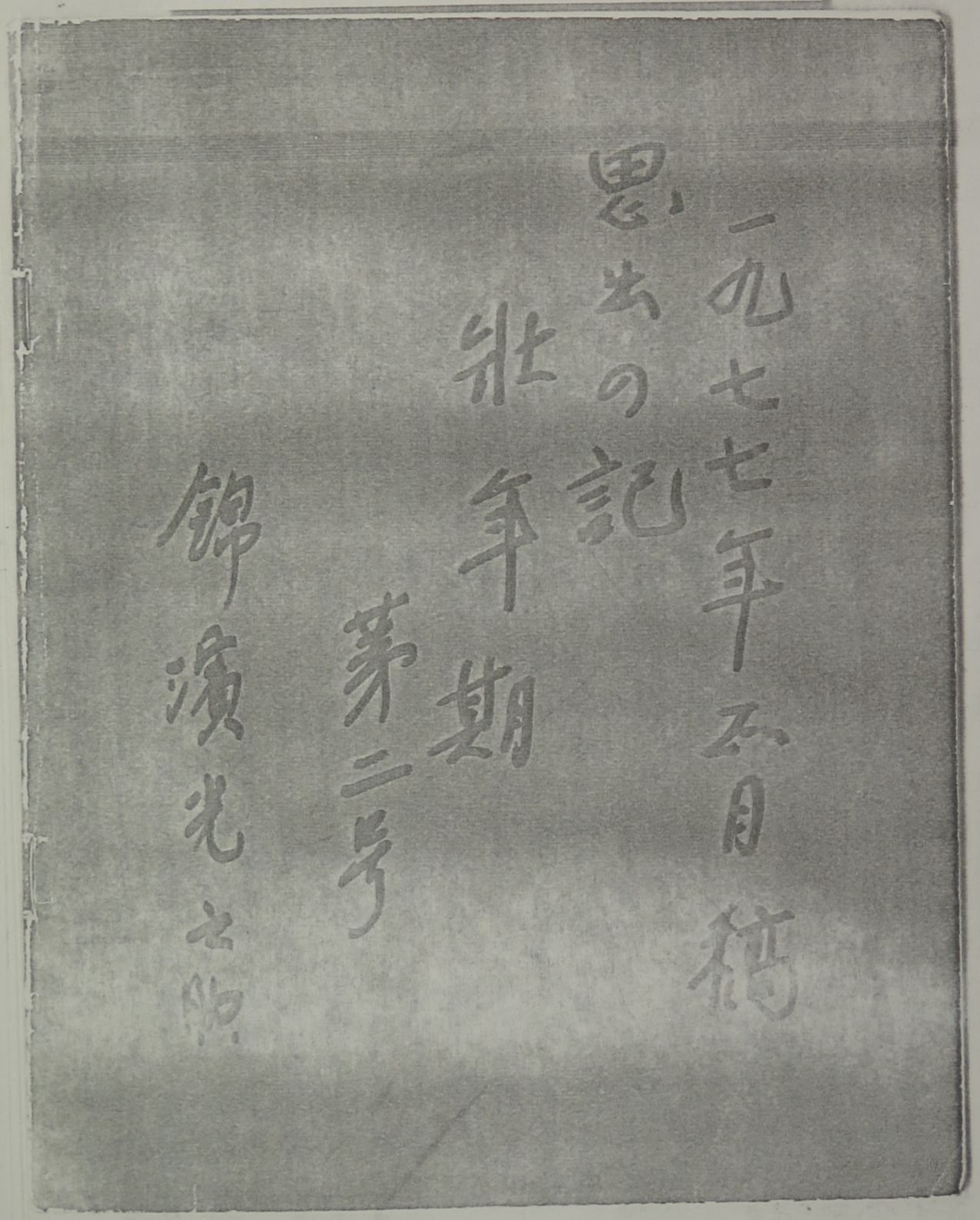
Omoide no ki, Dai 2-gō: Sōnen ki.

(My reminiscences, no.2: Manhood)

by Kōnosuke Nishikihama. Drafted in January, 1977.

Page 1 - 48.

Sept. 7, 1981/tg



Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

E II-2 no. 8

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

File no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections Archives

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

File no.

Dai 2-ji Sekai taisen chū no ...oide no ki, Dai 3-bu: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Chūide no ki, Dai 3-shō: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Choide no ki, Dai 3-zo: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Chūide no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no Dai 2-bu: Dai 2-shō

14

15

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

あった
依って私は議長の責任に於て発言を求めると言って立上った
「諸君今迄の皆さんの質問は長時間に亘っており それに依って充分
各自が体得してくれたと思ふ 諸君は尚これからもこの問題をもって
繰返されたとしても止まるところは同じだ。我が団体は今日そして
明日に亘って尚重要なる議案の審議をして頂かなければならない
緊急な事なるのである 依ってこの問題は次期代表者会議と幹部
でとりきめるから以上で承認してもらいたい 而し午後からも尚且
この問題をもって議場を騒せる人があったら その時は議長の
権限で退場してもらふつもりだと宣言した そしてそれをもって
休憩を宣した 午後会議が再会されたが会場には朝から
騒いだ人は見えず静かな会議に移された この会議の様子で
見てもわかる様にこのBC州沿岸に在留する
日系漁者並に日本人社会全般に亘る重大事件であったことを
率直に繰返すが 団体を中心として日系漁者連絡協議会が
大同団決をなさしめ その上に練業組合で参加し二万数千弗の
資金を集めた その頃の二万弗はバンクーバ日本人会などではとても
募金できない大金であった而かもこの日本人会と団体.日本領事.
の協争は林君の黒潮の渦の中にも一流の筆で書かれて
いる 私は今でも思ふ 漁業者程正直で常能で誠実なものは
なかったと思ふ一例を上げれば この事件で来る日も／＼も私等
団体幹部は連絡協議会をバンクーバで開催せなければならんこと
があった 或る晩 この協議会開会中 バンクーバ日本人会から一人が
とも言ってやって来て 代表者を論議協議が終る頃に出席させて欲しいと申込んで
来た 晩年日本人会から又幕僚でもしゃるとでも言っているのかと
言ふ人もあったが 保証金をステブストン団体からとり上げて その

証明料はこの度の同胞の弘済問題に使ふのだから こちらへもってこいと
領事を通して通告したら そんな金はもう一仙もないと言ったことで
団体幹部も領事も大いに恐った様のことである そうした時に何を
言われいのかと私共は軽くとり上げないつもりでいたら 日本人会副会長共
が入って来た 私はもう時間もおそいから閉会しますと言ったら まー
待ってもらいたいと言ふ それでは聞くだけ聞いて上げようと言ふ人もあって
彼は開口一番 皆さん御心地と御つかれのところで恐縮ですがと言って
実はバンクーバ日本人会は一大躍進を遂げ同胞一般の日本人会に
したいと言ふことです 即ちこれを全会主義と言ふのであります 幸い
今晩はBC州各方面の代表者会議がここで開かれているとの事で
皆様に撤底した協力をお願い致したいのであります と言ふのである
一同は日本人会は今まで何をしていたのか スチブストンの保証金までとり
上げておいて その金は一仙も日会の経常費に使はない同胞非常時に
団体と領事の承認を得て上げた資金として支出すると言ふ約束も
履行せず又今全会主義だとか何とか言って金集めをしようと
言ふのか もう聞きたくないと さー皆帰らふと言って立上った一幕
もあったのである。
ステブストン仏教会堂建立 （私の記述ステブストン仏教会史は別にある）
それより先きステブストン仏教会が会堂を建築すると言ふことで発起人会
を組織して寄附金を集め すでに建築材料まで買ふ段取りまでして
進行していた そして漁者団体の同意を求めていた その際幹部でも
人達（私も含まれてあった）は現在の日系人の境況下で仏教会など建築
ようとすることは日本人排斥に一層火に油を注ぐものであると言って
建築を差し止めることを通告した 而しその後英国大審院の判決が
さまるや直に発起人達は再び活動を開始して（第一アベニウ脇田さん
カーネストアベニウ

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke
File no.

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

Go: Dai 2-ji Sekai taisen chū no Gaikoide no ki, Dai 2-go:

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

スミスストア第一区の店にかってしまったことがあった

第二年度よりステプストン一区漁者はリバーフィシ組合を確設して役割会社とした こうした組合があったので ステプストンの鮭価は常に確なったにして一般漁場の漁者に較べて高く活がついてみた かし前述の通り奥価もまた各地の不況の風が強く吹いて仔を抑えても儲りうれなかった カットフィシ釣漁業も漁者がバンクーバの市場迄運んできていた 三仙四仙位しか売れなかった 漁者はその正月からバンクーバで会合して組織して統制ある要求を計画してみた 立れも唯に口頭漁者だけでは実績が揚がらないから日に吟沿岸の各漁区の日白工人に呼びかけて日白工人聯合カットフィシ漁者組合とすることにして八方運動した結果ついに此等者が組合組織を強くきらって切りくずす方法に出てきた 吉野カットフィシ釣事業にしていたバンクーバの和田さん(ミヨノ津和歌山県人大関誘卸、浜沖嘉市氏等の如力に依りキャベンリバーの住人名のテンプルトン氏を加り各漁区を回って組合員の団結を強く要請した 仔を立てて中心人物がその組合になくてはならん人 組合は街オーフに事務所を設けた 私口選ばれて会計職を担当し第宗三郎をバンクーバー住せて私の代役とし毎朝早くからテンプルトン和田さん達と集合してくる魚の数さばきをさしていた 毎朝事務所にその日の出荷量をたしかめた上で各ホールセに通告して割当をそれ朝の魚価を決定しその日の市価を決定した ここに至って仲買業者を従来の通りたして運搬者として組合員とをし役割はそれ即度通んで来る魚の量に対し一定の合金を支拂うことに

した そしてその週間に出荷した各漁場の数量を總合計算してその週当に魚上金額を平均一作何仙となると云う様に明確なったにして一般漁場の漁者に報告して活潤をはめることにして納得をしてもらう制度をつくった かし毎年四五月頃はどの漁場も最盛期で漁者の釣上量も大きいが立れをその週方に全部出荷すれば たちまち魚価が下ることになるので各漁区の出荷に或る限度の制限を加へて餘った魚は漁場にイケスに保存しておいてもらいバンクーバの市場が精をすいてきた時には特別出荷させて魚価の下り落を保つ法もなされた 漁者としては多量に一度に出荷してくるよりもその方が安く投下労力ことないので その通告を承知してみた 而し或る時バンクーバで消化しきれない魚はビヤトルに運搬していた こともあった 立れに対してバンクーバ市漁会はカード漁者組合はバンクーバの消費者に(市民)高い価で供給してビヤトルでは安く投げ売りしてみると云う口実で組合を相手として訴訟を起すと云うことになった 重大なことであるので幹部は市会に集って評議を加へてよく鮮魚の取扱いやビヤトル市場の認識を説明して了解を求めていた この事件は一ヶ月餘にして市会の承認を得ることができて解決した 兩来組合員の増減があったが一九四一年十二月太平洋大戦争に日本が戦争を始めるまで組合員は餘り不満不足もなしに続いてみた 組合員一人一株制であったので強く権利を主張するものがなかったし毎年一月の定時總会には漁者は遠近をとわず總会に出席した 出席した者に対し組合は宿泊料旅費を支給してみたので喜んで出席し總会が終了した晩は大宴会も開催された 戦争勃発と共に日系漁者は出漁できなくなった その為組合の経営事業さへまかなはれ次

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

状態となってしまった。当時の組合長テンルトン氏は日系
労働者に対し非常に同情し気の毒だとなかいた そして私たは
君は組合ができて以来 君は君の代理として給料をもち仕事
をしていたが君は今日迄何の報酬も貰っていない 今日は私と
共に街へ行って何かおまえに記念になるものを買って上げると
言って二人がワメー街（今のガスタウン）の質屋に入った 何が
欲しいか 私の目のために腕時計がいっても見えるからと言った
腕時計を一個買うことにした 正しい二十カラットであった
この時計はそれから三十年もの長い間今も私の腕にはめられ
て正雄をクインを示してくれている。よき思出の記念品となって
ある。

私が関係した公共事業のことについて尚暫く記述しておきたい
スタンズと漁民団体の事業として長くまとめてくれていた
（当時作成 渋谷氏 原人）が日本へ引揚げるに当って西海岸が事件に
なったような漁者のライセンス問題と一般法律スタンスには再び
平和な漁業ととりもどした年であり 私のおかかくその年は田中元
吉福永会との正副団体長会計脇田オが前後錦陵と
全く三足丹同の陣営でスタートした 田中氏は自分の身辺で
関係漁業 鏑り係数できる程ではないと考えていた立ちを団体のために捨てる
たことが大きな災難となったのである 北部を歴数程度をつけた
漁業団体であるから一部賛成が絶張せねばならない若い若い
あったのに三十四年三十五年に立って数は競馬者傍等に手を出してくる
いた一部であった 私がカット飼料を経って喚かれ始めた
のことであった 果せその年度の最終参事委員会を開いて
会合することにした。ところその夜の中に政やん雲がくれしてスタンスタンド
に居らない 国体長会計は和歌山に行って 佐藤漁業商会を
Nishikihama, Kōnosuke

臣君 活発長次下先と共に役職へのプレセントなどの
とりきめをせなければならない それから先ず監査会を設置
した 三時より参事委員会をひらく順序としていた 丁し三時の
時なか迫って監査会が終らないので 議長として私はどうしているか
とたしかめに行ったらどうもまだ金山の出納は帳簿と一致せないのだ
と言う 私は政やんの前に立って 何をいまごろしてまたのか 毎日その仕事
にかかっていて今日の日ある為に万全を期してをかなければならないのに
私が帰るのを待って団体職員は直に参事委員会を開催すると通知
してあったでないか 今すでに多くの参事委員が会場に集ってきている
どうするつもりかと詰よった 彼は何もかも知っている副団体長の橋本
会計の助は政やんがポケットから次から次へにたばにして数えられもしてある金を
支取りつつ 彼一流の言訳でこう一枚 この金は天下の公金であるこの
様にぐしゃぐしゃにして扱ふなんてもったいないと彼は一枚一枚の札の端のちぢ
れているところを正しく伸して それでどうだ政金はそれだけかと言っている
正しくこうぐしゃぐしゃの金は政やんのポケットマネーとしか認められなかった
その時計が思われたので私は監査役の論氏に話をしてきないと言うのであれば
これを参事委員会が開催協議しているあいだに仕事をして
若しできたら悪い報告することにするからそうしてくれと言って私は直に
別室で参事委員会を開き各割あされる会数を金が見えなく
ても大体協議事項として計上させた その外団体の未納金数は
名目の参事費が委任をもってその迄で集金して団体事務所へもって
くること イーサム、河上の語学校補助金は今支払ふことなどをとりきめ
ていた監査が過ぎれば外にどうしようもなかったので解散して日を新たし
て会合することにした。

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Gaikō no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections

Nishikihama, Kōnosuke
Exhibit no.
C..oide no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

追っていた その夜 肺炎がなほったが こんどは中耳炎を病んだ 耳たに
水と言って膿がでていた この病気は即ち[illegible]ならない その夏日本から
練習艦隊が三隻バンクーバーに寄港してフレザー河沖で日本の演習者は大観
迎をすることになっていたが 私は病は重につないでいたので この観迎に
船を出すことができなく 沖から帰れば直に病院に通ふことで睡眠をとる
暇もなく 街のコンクリートの上を歩む足もとかそかになって体の均衡
が失れる様につかれていた。このままでは いつなるかわからないと言ふので
日本へ行ってよい病院につれて行くのがよいではないかと妻と相談していたが少し
前 私が新造船を計画して 河野造船所に頼んであったので自分も
ついて行くことの見当がつかない それで実雄がウエストコーストに働いてあった
が漁師が終ったらお前達は家族をつれて日本へ行ってやってくれぬかと
頼んだら 彼は納得してくれた 嫁さんもこの機会に行ってくるので
よい 帰りもついてくるので ものになると私は思っていた 彼に若しキナで
ガスボート上に来れることになったら 私の古船を使ったらよいから 安心して
行ってこいと言った
彼がステブストンに帰って直た日本行の準備をした 一行はビクトリヤ港
からアメリカ船に乗り込んだのが四月を明けたころであった 三尾に着いた
悦子は直に大阪に出て病を求め 当流は医者の診察をうけて
入院した 耳し はっきりと わからない その後二、三の医者の診察をうけ
転々として来ていった それから医者は手術してみたらどうかと言った
これを聞いた田舎の母は即時に手術することを中止せよと言ったと知せて
来てやめた 大阪での生活は幼い子があるので 政枝や千鶴子それに
喜久子までついていたので大家族になっていたようだ 実雄は君子
の夫の許で 広嶋を訪ねてきた ここで 実雄は高野の娘との結婚の

話が進められていた その結婚の話は手術をせんと快方に向って[illegible]
いたし 実雄の結婚の話も順調に進んだことで妻は広嶋に出向いて
話をまとめて結婚式を挙げることになったのが春の初めの頃であった
と思ふ 連れられて行った春代は日本はきたないところで おばさん達を
見てインデアンの様だ 早くパパのところへ帰りたいと せがんでいたと言ふ
実雄は高野つや子さんとの結婚式したので 早々妻同伴でカナダ帰国の
手配をしていた そして四月頃先ず二人は春代をつれて帰ってきた
つや子さんがこの国が始めてであったので何もわからないし口数も少なく 来た
春代がついて来てから 百日咳で毎日毎晩咳がでて 私が沖から帰って
きたら しきまとい 晩は私のベッドにねるが とてもやかましく 大いに困った
私の新造船は三月中に完成 進水式を済して インジンの試運転
もして 手練しの為 スプリング漁を始めていた頃であったが 六月
頃より素庭出漁となれば つや子さんも心細いし 春代は私をはなさない
でだきついてでなければ眠らないので 日本の家族が一日も早く帰って
くるよう 手紙を出した それ等はようやく八月に入って帰ってくる
帰って来たので 私も一安心した つや子さんが実雄がミキナに行ってから
ついでにへんしてつ 畑仕事もしていた
この頃日本もカナダも日本人は浪花節が大はやりで 私共も船を走せ
つ 浪花節 匠蔵の一節も口ずさむ頃であった 桂 明治の
末期から大正の御代になって全盛を誇った大家の唱歌い文句であった
初代吉田奈良丸が北米講演に来てステブストンでオペラハウスで一晩
歌った これを聞こうと近隣の日本人が押すなくと詰めよった 私も
春代をつれて見に行った 席がつまって後から来た人は奈良丸の席が見え
ない おーい奈良丸 顔を見せよと酒の機嫌でなって大さわぎ 顔だけ
でも見せてくれよと呼ぶ 誠に滑稽なことであった 余興に[illegible]一の

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

Gaide no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no Dai 2-shō: Dai 2-jō

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Dai 2-ji Sekai taisen chū no Owaide no ki, Dai 2-go: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Kaidō no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Dai 2-ji Sekai taisen chū no Owaide no ki, Dai 2-shō: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

Choide no ki, Dai 2-ji Sekai taisen chū no ... Dai 2-ji: Dai 2-...

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

Daiichi Sekai taisen chū no Dai 2-ji Sekai taisen chū no Choide no ki, Dai 3-go: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

42

43

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

Chūgoku no ki, Dai 3-ji Sekai taisen chū no

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

File no.

それはならない 無理な話である 海岸線の石垣は〔ほかの海岸沿いの〕家で少し[illegible]国の
土地であった それは昔から海岸線の家が大きな石をもってきて石垣をついた
ことは暴風雨の時の高浪をおそれて少しでも宅辺りに防波堤を築
いたのである 後に自分一家を守るばかりでなく其の裏側の村の家も守られ
ることになるからであり 其の当時の庄屋も飾り文句言へなかった 即ち
今日の如く国県村がこの防波堤を築くとなれば其の費用は皆出している
かと思って一仙の補助金を出すことがない時にこの防波堤は各自が自から
石を運んで積み上げたのであった 藤井君も或る程度は承知していたのか
私は彼が〔役に立った〕多くわさいので荒しの時女一人で心細い思いをする 私の祖母が
夏になって台風が起り[illegible]天窓に大きな浪がおかってくるのを見ては命も
縮む思いがしたと云ふことを数々聞かされていたので私は思ひ切ってこの工事で
あると説明した 而し彼は現場監督である為[illegible]くれと交渉して
みたがもう工事が進んでいるので少し削っておけと言った事もあった。
今日に至って(一九八七年五月)文吾等の代になってこの石垣が国の土地か否か[illegible]
でいるその坪数だけ個人が国から買ひとり解決しようと言って来て
いる) 従来時は昔のことはその時々に依って権利を持った住民の努力と気
持ちを汲んで今日の政治家は善処されることが最も正しいのではないか 少しの
坪数を個人に買はせて金にして国家はどれだけ利益を生み其の金はどの様な
方面に又使はれるのか 私は知りたい
とにかく其の頃の工事は安かった 三百円の金が余った(セメント 百袋) この
セメントは東は上山・黒山の村道から家の裏側 其の家の横の道までコンクリート
で張りまわして尚前の庭に水タンクを造ったのである そして[illegible]佃文
はこうしておいたらもう大丈夫と自分の家の石垣ができた様に喜んでくれた。
そして私は再びカナダに来たが 日本の大家族には毎年カナダ金千弗
位い送金してやっていたのである 又 私が[illegible]

関係してそれので日本へ送ってくれ[illegible]塩鮭等に依る利益金は これ
の組合に送金されてくる其の中から〔ことになっていた〕私は東京の日本大使にそれだけの金額を
三尾に送ってやってくれと頼めば確に送ってくれていたこともあったのである
心丈夫に[illegible]されていたと思ふ
私がこの度三尾を出発して御坊駅へ向った春代は御坊の町で学校を休む
ことをせずにここで別れると言って別れた 其の時春代は女学校へ入学して友達
数名が賑かな旅をして私を見送ってくれた 父は又直ぐに帰ってくるとしっかり勉強
しておけと彼女の女学校の正服を着ているかたを見つめ自動車を走った
一九三九年になって欧州の情勢は独逸が全欧州を制覇せんとして戦争
状態にはいりイギリスやフランスは独逸に抵抗してゆく 而しアメリカは尚中立を
守っていたが日本軍部は枢軸同盟に[illegible]様になってゆく
漁業が混乱していきにつけて鮭の価格は大きく上って 今まで一尾何十仙と云った
鮭もパウンドベース(一斤何仙)となってサーモンが買ふ 鮭が[illegible]で取引される
ことになったのがこの時からであった。此の為漁者の収益が増加され[illegible]
が秋の白[illegible]とあって好況だ年を迎えた 而し四十年 日本が独逸
イタリヤと三国同盟を締結したと云ふことで アメリカを大きく刺戟して
日本に対し金融禁止の措置をとった [illegible]これになったので私共の日本
送金も限定され 最後には一仙も送金できぬ様になってしまった これ迄ん
私と働いた工三君は西藤さんと結婚した(家内が在加中) 而して別れて家を
建てた 家内が日本へ引揚げてから私は庄司[illegible]が長田力昇を使者として
住込んでやってくれと云ふので昇をパートナーとして庄司の下で世話になりながら
出漁した そして其の指導を経て 庄司の[illegible]新田先生が日本から来て[illegible]
から私のパートナーとなってくれた。
一九四十年に至って戦争は日本の不利となり始めて日本も戦争を
アメリカと始めることになるらしいと云ふ噂で 鮭は大漁であった

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Omoide no ki, Dai 3-go: Dai 2-ji Sekai taisen chū no

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

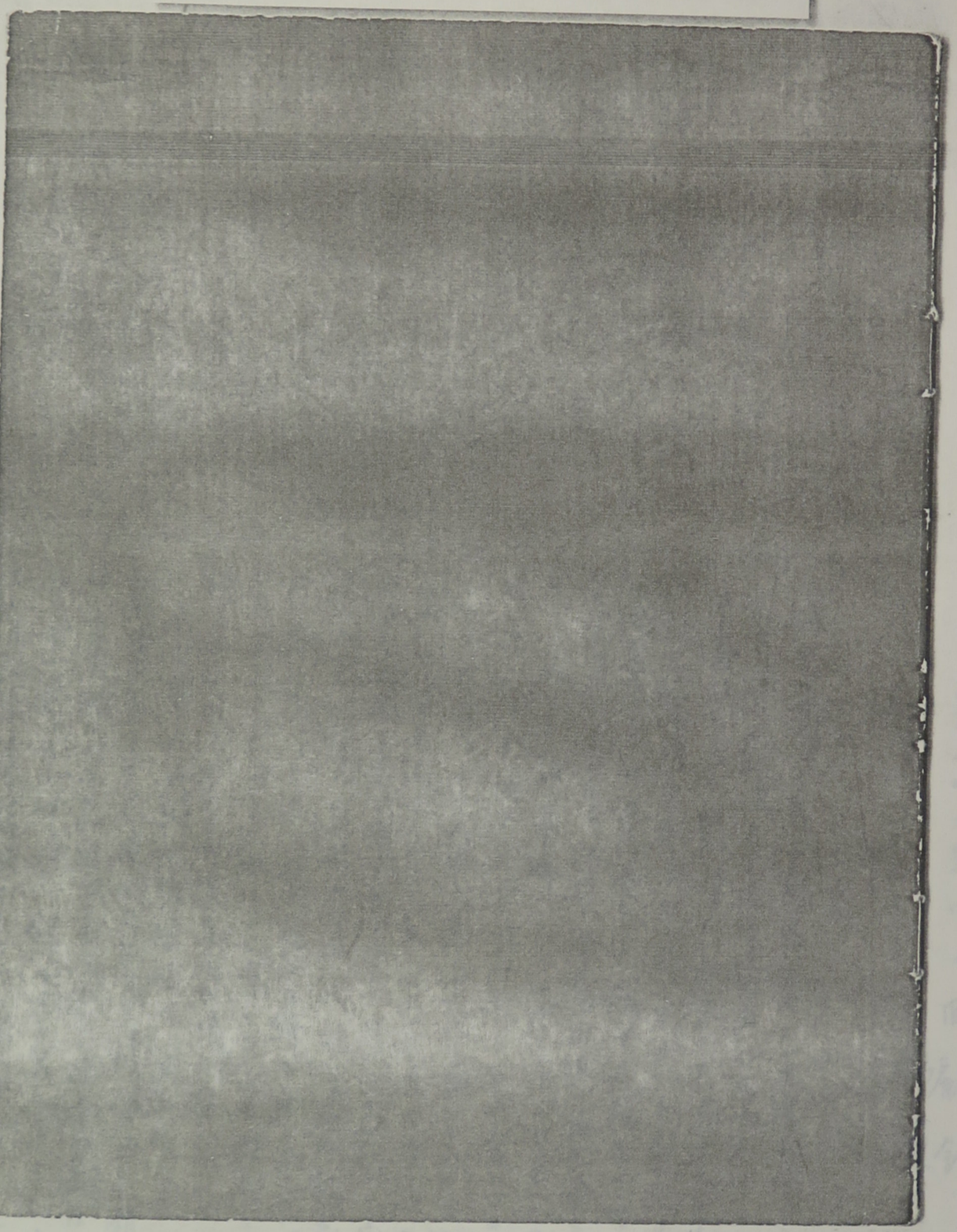
Omoide no ki, Dai 3-go: Dai 2-ji Sekai taisen chū no kaikoroku.

(My reminiscences, no.3: the memoirs of the Second World War)

by Kōnosuke Nishikihama. Drafted in January, 1975.

Page 1 - 39.

Sept. 7, 1981/tg



Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kōnosuke

第二次大戦中の回顧録

錦濱光之助

晩秋のカナダの空は陽光あわく木枯が吹くころとなるとフレザ河の鮭漁は十月末か十一月初旬で大体の漁期が終り休業期になる頃であった。私等のグループは毎年この頃よりバンクーバー島東海岸に出て行ってカウチャン（ロングハウス）釣りに転業するのである。今年も餘す日数も少なくなった一九四一年十二月三日私はメニー島附近の海で漁をしてたがまた一度セタナ岬南端イーストポイントリカナダとアメリカ国境線まで出て行って漁をして来たいと思の私はグループの連中に話をしたが彼等はもう天候も荒れてくるし働いている日数も少ないそがいなこと考へずにもうクリスマスも近くなってるったからぬめて安全な海で漁をなし早いめにステラストレに引揚げようよいと言って動く気配がなかった。私は意を決して一人でもよい行ってくると直に翌朝から餅を搭って午後より南下した。イストポイントは北にトンポアイランドが細長く東西に立って横たわってる。アメリ国境迄二、三哩に跨して居て潮流の強いところである。満潮の後漫時は一日二回あり、その度二、三時間ついはゆったりとして漁ができるが引潮上げ潮が強くなればとても働いておれぬところである。海底の磯は長く浅くアメリカの島の方に伸びて餌の豊富に行き、するので底魚もそれにつれてアメリ様泉するも当然であるしこに漁する漁船も沸にしかないのである。右様なことも私は暫くの漫期であるから是非行って漁して来たいと言う固度をもってた

Nishikihama, Kōnosuke

一九七五年 四月起稿

第二次大戦中の回顧録

錦濱光之助

晩秋のカナダの空は陽光あわく木枯が吹くころとなるとフレザ河の鮭漁は十月末か十月初旬で大体の漁期が終り休業期になる頃であった。私等のグループは毎年この頃よりバンクーバー島東海岸に出て行ってカットフィシ（ラングート魚）釣りに転業するのである。今年も余す日数すくなくなった一九四一年十二月三日 私はメニー島附近の海で漁をしてかたまり一度セタナ岬南端イーストポイントリカナダとアメリカ国境線まで出て行って漁をして来たいと思の私はグループの連中に話をしたが彼等はもう天候も荒れてくるし働いている日数もすくないそがいなことを考へずにもうクリスマスも近くなってるるったから止めて安全な海で漁をなー早いめにステラストルに引揚げようよいと言って勧く気配がなかった 私は意を決して一人でもよい行ってくると直に翌朝から餌を拵って午後より南下した イストポイントは北にトンボアイランドが細長く東西に亘って横たわってる。アメリ国境迄二、三哩に接していて潮流の強いところである。満潮の後漫時は一日二回あり その度二、三時間ついはゆったりとして漁ができるが引潮上げ潮が強くなればとても働いておれぬところである。海底の磯は長く浅くアメリカの島の方に伸びて餌の豊富に行き、するので底魚もそれにつれてアイ様息するのも当然であるし、ここに漁する漁船

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

餌を捲った晩はメニー島南端のホートンベイの湾に錨を下して
その夜を過し翌朝早く四時暗をついて又南下し夜明ける
頃には遥にトンボ・アイランドの南に達してみた 一度湖時はよく
奥と思ってみた称に釣れる為し午前十時頃から流れが強く
なって船はアメリカの島近くへと引張られてゆくので 一先ず
湾に入り休み又午後三時頃より出漁してみたが
空が雨を雲が濃くなってきたので安全な湾に入る為に北上した
翌日は思ったより風も風も波静かなるを見定めたので再び
暗を突き南下しアメリカ国境近くの沖合まで出向いて釣をはじ
めた午後二時頃大体の餌もつかいはたし 相当な漁獲を
得ることができたので帰路についた トンボ島の沖合を
通線にメニー島に向ってみた
午後三時半頃ようやくホートンベーの沖合に達した時一艘の
漁船がまっすぐにステファストンの沖合から南下して走り来るのを
見た 初めその船は艇をまぐに私の船に来てくれる役が近ず
いてくるに従って手を上げたり いろいろの動作で私を呼んでいることが
わかった 私は感にた何かステファストンで事件が起って私を迎えに
来たのではないかと それで私は一先ずイシビンをとめて暫く待つことに
した 役は西仙吉氏の二男力重雄であった 私の母のサイドに来て
とまった 役は西くて 先ず兄がイナことが起った 今日日本は戦争を
始めてパールハーバを攻撃して アメリカの軍艦も飛行機を
撃滅してしまったし マニラでは台湾から出た日本の飛行機が
大きな損害を与へたとかニュースはバンバンから半時毎ごと
に放送してるる。 わしや ここでドクイルを釣っていたんだが 二三日前

ステファストンに帰ってあったが釣ナワや外の職をこの湾の中の
ドクフィルキャンプにおいてあるんでとりに来たった」と驚くべき
ことを聞かされた 私は直感した そして重雄に言った「あがらの
湾することもこれでおしまいになるかも知れんど」とにかく日も西に
入ってしまふ メニー島へ帰るには暗くなるから今晩この中の湾に
入ってゆっくり飯でも食って話をしようやと云って二人は二隻の船
にもやいをかけて静かに湾に入った 私は船中に奥を生して
いるのでドクフィルキャンプの側に行かない 奥の酒と臭いで生奥
は死んでしまふので遠く離れて錨をおろして重雄と二人で夕
食をつくって食事を共にそ夜更るまで漁合った
何としてもうこうなったらわしゃ明日ステファストンに帰うな
ければならない 翌朝西風が強く吹いてみたので 私は重雄に
気をつけてよい風の日に帰って行けと云った 私は内海を
廻ってメニー島に行くことにして別れた
一九四一年十二月八日であったと思ふ 午後メニー島の湾に
着いたら私等のボルーブはもう奥を運搬船(西浩吉氏)に積み
込み或る者は船の中の水をかいう行或る者は船側を洗って
いた。私が着くや直ちに一通の電報を渡してくれた
ステファストンの第一区漁村協会の野口光次郎氏からのものであった
「会長風邪引きの為事務所にこられないから至急帰ってくれ」
との事であった 第一区漁村協会長は坂本外三郎氏で私は
副会長であったし国作役員でもあったから 私は皆の人達に
呼ばれて 私の奥は大きく腹が出ており運搬船に積込まれた
午後二時頃より ステファストンに帰る順備をして出発しようと
したが西風尚強く吹いて とても夕刻迄に母をステファストンに

Nishikihama, Kinosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

入れる見込みがないとわかったので一応ガリアナ島南端の港まで
舟を移し待期することにする時なかった 冬の日は暮れるに早く直ぐ
暗くなってきたので一同は夕食をとるのに一度の船に各自の飯を
もって乗込んだ丁度その時 庄司論吉氏がチマネスの大出きやたつ
が おだして焼けたと聞いて見舞に行っていたのが 初葉を探して
帰って来た氏は大きな舟折れをもらって来たのであったのをそれを
皆には艀代にしてくれた電燈をあかくとつけて食事を始めた
た時であった ところが岡の方から人の声が大きく聞えてきたが
風の為にさえきられ何と云ってるのかさっぱりわからない暫く
したら二人の白かが小舟に乗って初葉の船に近づいてきてゐた
よく聞けばおまえ達はその燈を消せ戦争だ 船室でも燈
をつけるなつけるのであったら総ての窓を閉めて外から
見えない様にせよと云ってゐる この時初はじめて
と云ふ英語を知った燈火管制のことである
翌日は晴れ風もないできたので 皆揃って出港一路ステフストン
に走っていた フレザー河口には早くも軍艦が来てゐるのを眺めた
艦に近づくにつれて艦上より こちら来いと メガホンで呼びかけて
きた 艦に一番近かったのが初であったのでしかたなく軍艦の
そばに行って舟を留めた 艦上より声あり「おまえ達はどこ
から来たかと尋ねる 初達はメニーアイランドから来たと云ふ
何の時にあちらを出発したかと聞ふ初達は九日過ぎにあちらを
出たと云ふそこへ行くかと又きいた ステフストンへと答へる
先方はOK それでは上流に軍艦が定泊してゐるそこで
指示をきけと云われた 初は皆に報告する様に命令を

を話して船を走せたステフストンの入口スカッチナリーの前
フレザー河の本流には必ず一度の軍艦は錨を下して警視し
てゐた初葉が近づくとこいと呼ぶそして河口で尋ねられたと
同に指なことを尋ねられたそしてステフストンに着いたらどの
オーフにも日本人が多く出て来て歩き廻ってゐた日本人経営の
造船所では次きくとドックに艀船を引き揚げたかってゐた
而し初葉は軍艦から聞かされたことはオーフに着いても何も
動かすな仮から見に行くと云はれてあった それで初葉は先ず
寝道具や食糧を陸上げしてしまった 初は兄の家で一ま晝
食をすませて直ち漁者団体事務所に行った そこには
団体役員もあり野口先生即新事もあった 色々と事情
を聞いた団体や組合は今日から一斉の事務を停止せよと
云って来ている集って来る者は唯評議するばかりであった
続いて日本人の集会は一斉してはならない日没から日の出迄の間は
外出はできない夜は燈火管制を各家に撤底してさせること、
云ふ通達が出されてゐた漁船は出漁先きより直に自分の
住んでゐるところに引かへること、等々の通達が出てゐることを
一般団体民に知せることにした ステフストンに在る漁者はわれ先き
たと自分の船を動かせないと聞いて造船所に上げてゐた而し
三日たいぬまにそれ等の漁船も全部引下ろさし海軍に
引渡すべき命令された海軍は之れ等の漁船を一括して
フレザー河上流のエスコース・ビクトリや方面の漁者も海軍管轄の下に
それからのエスコース・ビクトリや方面の漁者も海軍管轄の下に
役等の漁船は集団的にフレザー河の中に集決させられ海軍に
引渡した その集団が現地から航行中に

Nishikihama, Kōnosuke

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

私は歌山県産湯出身者の大江さんという人が
まで集団ぬに皆の人達」といっしょで来たが ここを通過した後
行先き不明となってみた 調べてわかった事は アメリカ国境オ
面向きに船が走っていたこと、船中で死亡してあったが これは喉
海軍兵のみしか知ってなかったと云う 修事が起ってみた
次にナース・スキナ・プリンスルパート方面から集団的に海軍に
曳航されてみたことはマクレラル島に依て詳細に書かれてあった
この Kaslo Kaposvar の通りである 彼等は着のみきのままで
何等の予告もなかった為食糧も水の用意のする暇もなく寒気にふるへて五百哩の長い冬の海をフレが河まで
曳かれて来た 私の妻の弟もその中の一人であった 実雄は
在の八時頃突然私の家に飛びこんで来た その時は彼は
もう声も出ず唇ぶるぶると震ってみた そしてかすかな声で
今ステラストンに送れて来ていたベリアキナリーへ船をつないだ
まま走って来たとだけしかよう云はなかった 私は彼が腹もへって
あろうがそれよりウイスキーを少し飲んで元気をだし 暖まれよと
まー云うかったであろうと慰めてやったようやく元気付いてきた
が尚更は かつれてみた 一度風呂もたいてあった 彼は食をとって
風呂を使って暖をとるなり つかれてそのまま ベットに入って行った
翌日朝は元気つきあげ 病でできた 彼は云った 私には兄の
安があるがほかの連中はどうなったか案ずる それよりもレキナの
家族が心配してるので 直に帰ってやりたい 若し安全のことで
金は何も持って来てない それは私がでない友達等もと云か
私はそれはしかたないが 何人住あるのかと云ひ汽車賃は出して
やるからと安心させた

私は思ふ海軍は命令だと云ふ これがどうしようもなかったこと
しても政府や海軍鉄道が若し人情があったならせめて
老婦の子供住手へでもり衣類水食糧住は積せて出発させて
やってよかったのでなかったの私は一九三一年より B.C州沿岸の
日白土人で新合カット・ファン組合が組織されて会計を担当
して戦争が始まるとその職にあった
Consolidated Cod Fishermen's Association
戦争数券と同時に日本人漁者が出漁できなくなった為
この組合を通してベンチーバーに出荷する魚の量は大きく減退した
組合の機能も失ふ形なことになってしまった 会長は白人でジミー
テンプルトン（キャンプル リバー出身）であった 彼は非常に私達に気の毒
がりしてくれた 特に私が創立次来十年に亘って会計職に居った
ことによって組合から記念品を贈ってやるからと云って 私をつれて
ウター街のホーセン店で時計を買ってくれた この時計は私は今
尚大事にして腕にはめている この組合は日系漁者がなくなった
のて経営ができなくなり一九四三年五月にベンチーバーで白土人
漁者が集って總会がもたれて解散した 漁者一人一株の割合で
組合員となってみた 事務所や設備品 残金等は組合員に
割当てられた 日系漁者組合員への文書の方は一括して私宛に
送れて来た 当時私はバーノンに在住していたので そこで私が
受取り ネームリストも添へられてあったので 私が各地に散在して
みた組合員につてを求めて配分して完了した
ステラストンのリバーフィシ組合の場合は最初第一迅漁者の営利
事業として発足したが その後ナ数の組合員が脱退したが

Nishikihama, Konosuke
Folder no. 0-12
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Folder no. 0-12

Nishikihama, Kanosuke

선생님께서 일찍이 말씀하신 것처럼 나는 참으로 행복한 사람이다. 더구나 이 몸이 병들어 누워 있는 동안 그 많은 분들이 찾아와 주시고 또 위문의 편지를 보내주시니 그 고마움을 어떻게 다 말로 표현할 수 있겠는가. 그 중에서도 특히 선생님께서 손수 써 보내주신 편지는 나에게 있어 무엇보다 귀중한 것이었다. 그 편지를 받아 읽을 때 나는 선생님의 그 따뜻한 마음씨에 감격하여 눈물을 흘리지 않을 수 없었다. 그 편지는 나의 병을 고치는 데 있어 그 어떤 약보다 더 큰 효험이 있었다고 나는 믿고 있다.

그런데 선생님께서 보내주신 편지 가운데 나의 병세가 좀 나아지면 한 번 찾아오라는 말씀이 있었는데 나는 그 말씀을 읽고 또 읽고 하면서 얼마나 가슴이 뛰었는지 모른다. 그러나 나는 그 말씀을 따를 수가 없었다. 왜냐하면 나는 아직 혼자 걸을 수가 없기 때문이다. 그래서 나는 선생님께 찾아뵙고 싶다는 말씀을 드리지 못하고 그저 마음속으로만 생각하고 있었다. 그런데 오늘 아침 선생님께서 보내주신 편지를 받아 보니 선생님께서 나를 찾아오라고 하시는 말씀이 있었다.

戦争が始った日には日本国籍者でその地方の国ほしい人達が
先ず逮捕されバンクーバーの移民局に連れられそれに続いて
日本国籍の御き得る男子十八才から四十の才位までの人が未令
をうけてロードヤマや東部収容所に送りこまれた
それからステブストンの日本人社会は麻の乱れるが如く色々と歳
迄し和学ふのである。移動が確実なことになった三月次から
は二世の連中は吾々は力を入れても決して
移動して行かないと頑張り出したグループをつくって反抗
した又帰化人は帰化人会を組織して政府に抗議しはじめた
即ち彼等は敵性スラブ人と隣者国体は既に總ての事業が
停止されてるのである。その財源の一部をこの帰化人会に運動
費として提供せよと強気な勢で幹部に要求して来た幹部は
左様な要求は一切まかりならん 国体財源は一朝にて
できたのでない長い歳月吾々の先輩がう今日に至る迄の歴史で
の積み重ねに依ってなりたったので政府の帰化人即ち少数の連
中が二世に対して左右されては甚だ遺憾至極であり戦争
終ったら又再び団体更生の時も来るかも知れん幹部は
それ迄絶対にこの財産に手をつけぬと言明した
四月に入った政府の移動計画は一段と速度を加へて来た
国体幹部は日本国籍者ばかりでなくなった今迄時局の
重大性を認識し自ら勝手な政治をはま感情的な態度を
持っている連中へもよく説得さし今回迄団体を中心として
して参りましたスタブストン日本人が相協力し相助け合って
恨を残さず各自が移動できる様極力立ちに努めた

（団体に来て参化団を決成して）

一方青年会幹部の連中も永い間御奉仕してくれた。私は又毎日の如く
移動に荷造りや積出しに毎日奉仕してくれた。私は又毎日の如く
バンクーバーのヘスラーズ公園みのRemp事務所にバンクーバの
佐藤善と共に出向いて出来る限り一家族で一つの場所に移動
してもらう様それ等の人達の要求を携へて申請してみた思ふに
その時は私は家族が全部日本に在ったので気楽であった皆の
苦悩ができたことであった 即し団体幹部の中にも勝ち負けの
考もあって自分の移動先きのことのみに考へる及して何一つ働く
事のできない者もあった。こうした時局ん時宜するにはやはり
難国たる信念と決断がなくてはならない そうした人物は
数へる程しかなかったのが遺憾に感じた
その当時ヘスラーズパークは各地方から移動してマニュアルと
言って公園周囲はバーバーワヤーで張りめぐらせられ一度ここに
入ったら出ることができないと言う厳重な警備実があって一人一人
出入許可を得なければならなかった 国体の建物は二基の人
達の仮りの住居となり待にレバストランビルディングは共通会と朝昼晩
勝半鶏等を集めて一緒に見せていたところであったので
その頃ではホールの様な歌声の奥気がたいよって とても不愉こ
上ないところであった奥地やエガーの畑作部落（ロッキー）へ家族
移動する人達の一時の溜場とは言へ人道上許せない不衛生
なところであった バンクーバーやステブストン在住の人達はここに入れ
られることがなかったのでよかった
或る朝早く私の家の戸をたたく人があった 永は三尼の老人で
私に何んとかしてくれと言って来たのである。この老人が母と妻とわかれ
三人の四才の子と共に一家で若し 突然をしてみたが 二基小供は

Nishikihama, Konosuke
Folder no. 0-17
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

カナダ生れであるのでまさか二世を奥地へ迫いやることもあるまいと考えてなかった
彼等はカナダの政治をうけてあったし カナダ人として カナダ父の国が
たたかう 二月に
したニシトやプリービリーバーはセルフエバケーションと云って自由移動
させる場所とされてあった一名全財産だと云われた ニに行くものは
めたるれ軽視された 何となれば その名の通り自分で食び家賃を
持って住むところであったからだ なで私等はこれを選んだかと云うことは
大津氏と共に私もリバーフィシ組合の責任者であった 普通の收容所
へ行けば 自分の金でも自由に銀行の出入ができない 組合員の
要求を政府に申出てあったが一人残さず日本人がここから立ちのく
べしとの命令であったので決断して ここから動かないと頑張りました
調べる旅行の迫となって身を隠しているのである 老人は又
になり休しくこれからの事を考えては この三人の子の将来がある
なく自分もどうなってゆくのかと心配して夜も眠れなかったと語り 私に彼等に会って
四回も使に行ってねむれなかったと語り 私に彼等に会って
欲と共に一つの家族で移動する様にさとして 行く先きを
私にきめてくれと云うのであった 私は彼等が主にそこそこいる所も
知っていたが しかし彼等は私を見る目が異っていた 彼等は私等は
警察の犬だとおもって相会う様に路を歩いていても近くその道を
かわして私に会おうとしない 仕方なく私は根気よく彼等一家だけでも一つの
家族として移動させることが如何に老人を安心させるかと云うことで
あったが 扨彼等に会って現在の日本人の立場はどうしようもないのだから
皆仲よく安全になる所へと行くことだと倒を討いて話したが一向に
ようしやと云はない 結局彼等はマウテー(Rohwer)は捕へられて
一人〳〵東部の收容所へ捕虜として送れていった 老人は近所の
婦女子老人等と共にステブストンから汽車に乗せられてクリンウード
スローカン方面に移っていった 私の親類の者でもこうした行動を
とった者もあったし 或る家族は父の方だけを同いて家族移動に

踏み切ったのもあった
私は考慮の家族をつれ大津氏に一家族をつれてミレトに移動
した ミニトやプリービリーバーはセルフエバケーションと云って自由移動
させる場所とされてあった一名全財産だと云われた ニに行くものは
めたるれ軽視された 何となれば その名の通り自分で食び家賃を
持って住むところであったからだ なで私等はこれを選んだかと云うことは
大津氏と共に私もリバーフィシ組合の責任者であった 普通の收容所
へ行けば 自分の金でも自由に銀行の出入ができない 組合員の
要求を政府に申出てあったが一人残さず日本人がここから立ちのく
べしとの命令であったので決断して ここから動かないと頑張りました
調べる旅行の迫となって身を隠しているのである 老人は又
になり休しくこれからの事を考えては この三人の子の将来がある
なく自分もどうなってゆくのかと心配して夜も眠れなかったと語り 私に彼等に会って
四回も使に行ってねむれなかったと語り 私に彼等に会って
欲と共に一つの家族で移動する様にさとして 行く先きを
私にきめてくれと云うのであった 私は彼等が主にそこそこいる所も
知っていたが しかし彼等は私を見る目が異っていた 彼等は私等は
警察の犬だとおもって相会う様に路を歩いていても近くその道を
かわして私に会おうとしない 仕方なく私は根気よく彼等一家だけでも一つの
家族として移動させることが如何に老人を安心させるかと云うことで
あったが 扨彼等に会って現在の日本人の立場はどうしようもないのだから
皆仲よく安全になる所へと行くことだと倒を討いて話したが一向に
ようしやと云はない 結局彼等はマウテー(Rohwer)は捕へられて
一人〳〵東部の收容所へ捕虜として送れていった 老人は近所の
婦女子老人等と共にステブストンから汽車に乗せられてクリンウード
スローカン方面に移っていった 私の親類の者でもこうした行動を
とった者もあったし 或る家族は父の方だけを同いて家族移動に
踏み切ったのもあった
ここトに移動した年の七月私は大津氏と突然出喫せなければならん
ことになった それは佐伯組合がシャトルの奥部委員長に委託して
白スプリング冷蔵ものを托してあったが幸年も過ぎても未だに売れ
ないとのことでバンクーバーの代理人に通報してきた彼等は委託契約を
無視して売れてあっても こちらに金が送れてこないので こうまいに

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 0-17
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

してあくれけに行かない裁判してでもと代理人から言って来た 初しその
当時私共はレントに行く事が許されないので砂場を見ることも
できない 数度か督促してもまた変わめの返信はがりでその省の
冷蔵倉庫代も加えて来て結局バンクーバで一回目を借れして
欲門勝彼女とも相談したが これもたおうないことばかり言うので
業をたやして二人がレントに引越した結局 この男は一文にもならず
どう当話されたのかその後もなしのつぶて何もわからず大きな欠失を
うけてみる。長い間信頼していた親戚おれ白人であるかぎりあてには
ならない時代であった この一団の私共のバンクーバ滞在中一日ステプストレ
を見に行った その時は七月末であった。白人新聞は Jap go home と
言ふ見出しでアメリカ製の豊漁を得へあった日本人が出て行った後に
魚がたくさん来たと言ふことである。私はステプストレに入るや先ず自分の
業を見に行ったソーステンソンが既に住んであった ワイフはと尋ねたり
バンコーバー(買物に行ったので不守をしてたきだと言った 僕はどうかと
聞いたり毎晩二三百匹はとれると言ふ私はなれ者でも働かないかと
言へば喜び夜の仕事がハードで直は僕あっても続り働かないと
言ふ城ん結婚を話だと思って彼はビールを出して男れ私が飲んだが
大庫氏はクリンナやしでか飲まなかった街に出た街角の元
向井の店にミセス江ョンソンとエエード夫人が二人でチーハウスを開い
てあった江ョンソンミセスは私を見るなり はいれと言って直飯はこゝで
食べてそれ待っていると言って款かにしてくれた。四ヶ月前私共が
主のいた時とは雲天の変り方をこの街で見た全くさびれて
白人が入っていたが何をしているのかもわからないし彼等は不思議そうに
私共二人を見ている。今時ニントは日本人が現れるとはと言ふ感であったのか
それから私共はかつオフシーズキナリに行ったら 山口 秋則サ

の上役やキナリ働きの途中に会った 私の組はすし変れたかと聞い
たり又だけ変れたか食はカストラランが保管するとかってあった品々は
手をつけれない様ってる組を調べてタキ(品名)を重ねてつけて出て来た。
大津氏はスカフケキナリーの方を見たいとかるので六人が橋の側まで
行ったら海軍の将兵は何にしに来たのかと尋ねてきた大津氏は私が
元住んでいた家を見てみたいと言ったら大津君だけ行った彼は直く
帰って来た何もかも前れて家の中は足の踏入ることもできない様
になってあったと言った沖では漁船は網を入れてあり走り回っているのも
あった。それから再び元日本街へ戻って仏教会堂の前を通ったら
お寺は表戸が開けばなしであり北側の窓ガラスも破れて破片は
コンクリートの道に散ってあるその中にお骨も畑に至るまで澤山まき
散されていた 之れを見た私は驚きのあまり声も出なかった 一つや二つの
骨箱でなく相当数のものであったからだ遺骨をお寺に預けて安
全と思って移動したのかも知れないが父母祖父母や子供等の遺骨
であるとしたらなぜ自分達が移動の時共に携へて持って
申かなかったのか戦後又は移動中にもこの話は私が聞く
ことがなかったが開教師にも相当の責任と信徒に対し注意し
てなければならなかった事だと思った 当時日本人が各地
から移動する時戦争が後う長く続くまいとして我等終ったら又元の家に帰ってこられると思った人十名くあったので
彼等は色々の品物を家の中の一部を開してかくしていたのだと
言ふ私し白人が之等の家に来て住むやそこそこと探し回った
イナサームのキナリーの家に住んでいた人が移動の際小屋

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 0-12
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

の中の庭に穴を掘り箱をつくりコンクリートでかためてその中に又別の箱をつくって砂金をかくしてから表面を又コンクリートで塞ぺいして立退いた 移動先きでこの砂金は気になってたまらない
何とかしてまた一度自分の家へ行ってその金をもって来たいと思ったが
BCに出てくるには許可がなければ動けない人の話を聞けば疾病者は許可を得れば専門医に診てもらいバンクーバーに出て行けるということであった この人は目がすし悪くなっていたので 目の専門医に診察をうけたいと云って出晩の許可書をもらって出て来たそして
次第の自分の家へ来たら既に白人が住んでおり 致しかたないので
薪小屋に入って上の新聞紙の積んであるのをとり掛けて 下のコンクリートを破ろうとしたが音が高いためまわり白人が出てきて何をするのかと云って来た彼は別にとがのことは初の家であったのでこっちに忘れものをしてあったので取りに来たと云ったので彼はコンクリートをめるだけの勇気もなく一先ず引揚げた そのあとへ小供が帰って来た何か不思議なことが薪小屋にあると父は云ったそれからその子は薪積み重ねたところを取りはらうたら底の一箇所がコンクリート張りであった ハマーをもって来てこのコンクリートを破って見たら中には箱が入ってあった一つの箱から現金が出て来た大騒ぎになった それからステップストンでも窓掃除をして居るの仲間をはずしたり天井裏に上ったりして色々のものを見つけ出した 併教会堂でも併座の下の引出しなど手当り次第に探したものである 骨箱の中にも金が入ってなかったかと聞いてびっくり皆骨であるので そのまま窓越しに外に投げ捨てたものである それにしても開教師も遠族の人達の気持ち板挟になってどうであったろうか 人に話をすれば自分の心が一層とがめられるのでそのままにしていたのが 今回こうした現場を見て来たのは私等

二人だけでなかったかその後日系人が戦後沿岸に帰れる迄日系人はそう多くスラカストンに入るものがなかったのである
ミントの引揚げた私は戦争がいつはてるかわからない四面の情況を考案したそしてこれそのまま居食生活を続けていたら戦後かうけつけになって復興するにも力つきて何もできなくなってしまふこれに参って今からし或る程度平和を時へおくことが賢明だ宗族の多い大津氏も北海道五稜郭となるとここに参って今からし或る程度平和を時へおくことが賢明だ宗族の多い大津氏もそう事を感じてか復興するにも力つきて何もできなくなってしまふこれに参って今からし或る程度平和を時へおくことが賢明だ宗族の多い大津氏もバーノンの百姓仕事があると云ふ日本人農家に身を寄せて行ったミントから面移動したのが私が第二号であったのだ 森井委員会でも心よしとせなかった その為私は東部に旅行に出かけたエルはウィニペグ迄に私の兄達がレジャがビーツ畑に働く為にマニトバ州に始めから移動してあって難物が結婚するので来て欲しいと云って来てあった ウィニペグの日本人登録事務所に出向いた時はもう各に向って登くなってゐた今迄田舎のレコがビート畑で働いていた人達の中には私もよく知ってゐる顔名もあった彼等の市に来て各向きの仕事をこの町で求めたいと要求してゐたリスティと云ふ係官委員はそれ等の人達を一人一人面接してゐたが或る一人れ対しふまえは先週ここで職を求めて出て行たでないか それに又来たのかと問ふと彼はあの仕事は私に不適当なもであったからまだ外に仕事ないかと聞いてあった そこで一寸山くなるので何度も職を変るおまいはオレは辛抱したらどうかと笑って言った最後に私はこの度晩の市に遊びに来ったのだが私たちよい仕事がないかと兄弟と思いつく言ったらミスタ錦浜お前この町に移ってくる気がないかよい仕事がすべてゐると云ってくれた 私有難ふと云って後をきめずに兄の家へ帰った BCへに帰る時にも

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 0-12
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

レポートする為に立寄ったら 山ほり帰るのか しかたないなぁ!! と歎しく彼は握手してくれた その時私は言った そのかわり私の弟の家族や友人が こちらへ来ないと言ったらこの町で仕事を探してやってくれるかと。彼は迅速にベリーさん。アイロンかんと言ってくれた 彼らに帰りミルトの茅や大神氏に知せた 町中の仕事であったらよいと言って彼等は春を待って少しづつに移って行った 私がミルトに着いた時 歓迎の者で丈は日本国籍にあった者 ホープリプリンストンの道路キャンプに送り込まれた。妻と女のまは一方はヘスティングスパークに入れられたが私が会った時 私の行く所へ一つにまとまって行きたいとそれはキャンプにある夫も安心するからと言うことで 私等と共にミルトに行く様にしたが自活生活であるので始末るだけ早い中に夫と共に居させる事を手配していた たまたまタレメの収容所が改備をされたので夫の働く道路現場に近いのでタレメに移す許可を得たので 私は二人につき添ってミルトからタレメに送りこまれた。ここで嬉しい人の出にと言う一家と共に一軒のキャンプを求めた夫はそこから道路工事に出て行く様になった タレメには三尾人も多く移り住んでおって とても賑かであった 引しこの中にも又私の近親独身者がおって久敷振りに会った彼は多方になると目がかすみ歩行にも不安を感じる様になったそうだ 私は一度ベリーベーへ出て専門医に診てもらったらどうかと言ってやった 三日目の朝 私は又ミルトに戻らなければならないので彼に気をつけて養生しなさい こゝには病院もあるし日本人の医者と院長してあるのだから入院して治療をやかましく叫んで眠れないと苦情を私に許した

なさいと言ってやれて精神異状を起していた三尾人が相談食事も食道に行けなくなった この話に居た三尾人が相談して週もち式に彼のベッドまで毎日持ち運んでくれたと言うこうした ことは いつまでも続けられるものでないから病院に入院させたいと申請したが 友人でない者は入れないと断られたそれでタレメの三尾人は外に訴せともあることだからと言うことでこの男の義弟妹を呼んでは如何とか言うことで手紙をスローカンに出してやったが この身收の者は「遠方のことであるし 今は我時中であるきこうした ことは政府が責任をもつべきだ」とか言って仲々会って来てくれない しかたなしとしてタレメの三尾人は相等って私に相談したいと言ってミルトの日本人委員会に知せて来た 委員会長の新井氏は私を呼びにまたそして治合った 新井氏 古川 新見の幹部は云ったあなたは今迄陰ながら奉仕的に移動の為にも皆くこゝでゆっくり休んで頂くつもりであったが 私に気の毒であるが行って見てきてやってくれないかとの話であった どこに行くとしても自費でなければならない次第 私がタレメへ家族を迎うについていってやった時も半分は怖かうその夫が戻してくれたが今度は友人である何もかも自分で解決してこなければならない 私は一人で身軽るに動けた時であったので行けたタレメに着いたら佐々木露木海蔵氏等や三尾人が迎えに来てくれてみたRemptと私に好意をもって迎えてくれた その時彼は口元ワアー養老院に老人達と同居をさせてもらっていたが 立派の老人達は夜中でもやかましく叫んで眠れないと苦情を私に許した

Nishikihama, Konosuke
Folder no. 0-17
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

私はRCMPの事務所で露木氏と立合ってもらいあそこにおくことは皆の方に大きな迷惑をかけると思ふので ユルコアーの建築いにかさな立掛出しのルームを一つ造ってそこに移すことができないかと請願した この提案が認められて許可された建築たとりかかってくれた それでも問題は唯れが彼を別居させた扱見守ってゐるかと云ふことであった ユルコアーの正ヤニタリーは三尾人で私の友人 酒井庄太郎氏が女性してくれている彼女は酒井氏では私がサしても給料とっているのだから私が女性したらよい位に考へられてる同郷人であるので今迄私が見てやったが在中の寒い中を彼の室まで出てゆけない この際はっきりとした方がよいと云ふ誠に気の毒であった それだから私は先ず近スローカルの義妹にタレメに移ってここで彼を見てやってくれとも書いて出したのだが栗の一つでは何も返事合がこない 酒井氏同く彼の身内の者もここに居てるが他人の招くで彼を見舞ってやってくれることもしない これでは他県人にも恥しいことである。私は彼にも会った そしてあなた達は遠くから私を呼出す迄に これはあなた達でスローカルの従弟妹に連絡して置致すべきでなかったのかとただした 私は一通の手紙をした これから あなたに頼むことは 私は或る限度の金を御礼とも あなたに渡しておくからそれで女給をしてやってくれと云って幾ばくかの金を彼に手へて彼の承知を求めた 一日キリスト教の長老マクワイリアの氏は丁度タレメに駐在の訪問をしてゐた彼はキャロー スローカン・ニウデンバーと日系人の収容所を常に巡回してゐると云ふので彼の従弟妹もキリスト教信者で常に教を合せていると云ったので私は恐った 矢をあなたは下がこう物な不具な狂人的なものにならていることが次第から知ってゐる又カスローの彼等にれ一度は見舞に行ってやってくれとも云ひ得なかったか 今日あなた一人がこのタレメに来て一般キリスト教信者を尋門するより最も困ってゐる一人をどうしてやったらよいかと云ふ事が先決で最も意義のあることでないのですかあなたがスローカルに帰った彼等を外す行ってやれと云って下さいと私が云ったら こうしたことには私は立入らないと云った その言葉に私は激昂した そして云った あなた方がそれでもキリスチヤンかと。先生はそんなことを云ひなさんなと云った 愛を捨てキリストとはそんなものかと私は尚もくい下ったが先生はそのまま行ってしまった 私はタレメの日本人委員会の佐々木総務 露木海蔵山下兼蔵氏に私の今回とった愛況を了解してもらい佐々木氏と共にRCMP事務所に行って万事OKにしたと報告した 私がこうしてタレメを引揚が称としていた晩三尾人の水葬富蔵氏が死んだ 私のミシントへの帰りは又おくれた 告別式には司式の役もはたした長男一人であとは娘二人と共に妻と共にタレメに移動してゐた 長男は訴願の申に入って遠く才レタラの収容所に入れられていたので 何とかタレメに戻してもうへることをRCMPに申請したが許されなかった 私は告別式の中で一般会葬者に三尾人として告礼の挨拶と共にこの家族の不幸を述べて今後のことを頼んだ ミシントに帰ったら敵産管理局からステンスとの私の家屋敷地全部を売却したとの一通の手紙があった 私は それ迄 何回かに亘って戦争終決迄は売分せない称にと書面を出していたが一方だにせうれずにその金はなるのアカウントに入れられただけで先方りられた 私は戦争が終ったら日本の家族を呼寄せて居したいと念願していたのだ 之れは根こそぎにされて水泡になってしまった

Folder no.
0-17

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

バーンの私の生活は気楽なものであった 朝(夏の時分の)
畑仕事トマト摘みやエリケーション(畑に水を引く)仕事であった
農主は宮城県出身者の二世で千葉強と云ふ私は一家の一員として
二女の雪ちゃん洗濯物までしてくれ款ちゃんであった 私とその子供達を
可愛がって山った土曜日晩 町に出る時は私と共に自動車に乗
せてうって映画を見に行くことが暫くであった 戦後十年にして
私は再びカナダの土地を踏んだスタフストンに居住するや毎年の如く
クリスマスには父がアップルを送ってくれてるた 一人男のるの進は
大きく成人し新妻をめとりリチモンドの学校に夫婦で教授を
とってゐた 時折り私の家へ来ておいさんくと云ってよく泊をしに
来た 私は彼れ十ったおいさんこのスタフストンには地十家もあったの
だが戦争で何もかも売れてしまってがっかりしたので戦争 仮日本へ
行ったあったバーンで暮したことは私は終生忘れられない今さう云ふ
ないか月夜の晩に日さめては外にて日を眺めてはこの月は日本の
妻や子供等も見て遠いとこうで私のことを思ってくれている 私も家ぬが
とう様な暮しをしているであらうかと案じては床の寒さはひとしほ
自にしみた おる当座(当座)はその様な経験もない款の僕で姉のそばを
とけんかしていたでないかあの頃は覚えているかと云ったらよく覚えて
居るおいさん私等(家)日本へ行って来たのと云ふそれから彼等は
夏休みを利用して日本へ行って来た(三月)帰ってあったが よく日本語
話せなかった新妻はとても主訳を日本語を話す様になって来た
横浜のカナダ領事はおまい等働きたかったらいくらも
も仕事を世話してやると云ってくれた英語を教へる先生になったら
とても金儲けがあると云ったが帰って来たと云ってゐた

私に餞別に奇麗なしたが スタフストンの土地家屋を売られたことに
依って大きな損をうけた もの(夏の時分の)
畑仕事トマト摘みやエリケーション(畑に水を引く)仕事であった
農主は宮城県出身者の二世で千葉強と云ふ私は一家の一員として
二女の雪ちゃん洗濯物までしてくれ款ちゃんであった 私とその子供達を
可愛がって山った土曜日晩 町に出る時は私と共に自動車に乗
せてうって映画を見に行くことが暫くであった 戦後十年にして
私は再びカナダの土地を踏んだスタフストンに居住するや毎年の如く
クリスマスには父がアップルを送ってくれてるた 一人男のるの進は
大きく成人し新妻をめとりリチモンドの学校に夫婦で教授を
とってゐた 時折り私の家へ来ておいさんくと云ってよく泊をしに
来た 私は彼れ十ったおいさんこのスタフストンには地十家もあったの
だが戦争で何もかも売れてしまってがっかりしたので戦争 仮日本へ
行ったあったバーンで暮したことは私は終生忘れられない今さう云ふ
ないか月夜の晩に日さめては外にて日を眺めてはこの月は日本の
妻や子供等も見て遠いとこうで私のことを思ってくれている 私も家ぬが
とう様な暮しをしているであらうかと案じては床の寒さはひとしほ
自にしみた おる当座はその様な経験もない款の僕で姉のそばを
とけんかしていたでないかあの頃は覚えているかと云ったらよく覚えて
居るおいさん私等(家)日本へ行って来たのと云ふそれから彼等は
夏休みを利用して日本へ行って来た(三月)帰ってあったが よく日本語
話せなかった新妻はとても主訳を日本語を話す様になって来た
横浜のカナダ領事はおまい等働きたかったらいくらも
も仕事を世話してやると云ってくれた英語を教へる先生になったら
とても金儲けがあると云ったが帰って来たと云ってゐた

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 0112
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
2-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hesburgh Library, University of Notre Dame

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Special Collections and University Archives
Rare Books & Special Collections

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
9-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hesburgh Library, University of Notre Dame

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
2-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
2-17

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no. 0.12

彼に家から一寸来てさー行こうと車に乗らうとしてゐた
母と妹さんが出て来てグッドバイと云ふ 私は手を上げて車の人と
なつた 夕陽は稍西に傾いてゐるが春のきざしは暖かい、
移民舘の前に来て私共の車がとまつた 彼が私に云つてくれて
いた為か大勢の日本人がいつぺんに戸口の両側に立ち現れた
彼等は不思議な顔をしてゐた 私は彼等の一人一人をよく知つて
いた その中の或る者は錦底だ!! 何か悪いことをしてこの移民舘に
送られて来たのかと云ふのであつた 私はバーノンに在つたことも知つて
いる者もあつた あの遠いところから一人で送られて来ると云ふことは
彼等には納得できなかつたであらう. マクテラーと私は車から降
りた 直ぐ館内の事務所に行つて手続きをすませて二人が又
外に出た 私は彼に長い間お世話になつた厚意(親切)にしてくれたこと
で礼を云った そして左様なら〳〵と繰り返した 彼は固い握手
を私にしてくれて又会ふことのチヤンスであらう 妻や子供は必ず
喜ぶであらう. 気をつけて帰れと云つて それから彼は車に
乗つて去つて行つた. 私は再び館内に入つた大勢の中に大出
外次郎や私の先や元ステブストンで鮭捕りしていた知人もあつて
久振りの対談が続いていた 事務所から又私を呼出していると
云つて来たので出て行つたら荷物はどうしたか日本の住所先きや
家族のことについて尋ねられた 私はそのまゝのことを答へた 現在もつて
帰る金を聞いた それから夕食をせよと云つて食堂につれられた
之れが移民舘の第一夜であつた 私が日本引揚者として移民舘
に移されたのが最後の一人であつた 翌日は何もすることないが館内
から外へ出してくれない まー一度バンクーバの街中を見て廻りたいと

云つたが誰れにも許されないのだと云った 要行にも出られない その
翌日アメリカ船メーギース号がCPRのオーフから私共を乗せて
出発した 或る人は移民舘に入つてから一週は籠りもどこへも出され
ないので不自由でたいくつであつたと語つた 私はマクテラーの庇護で
気楽に自由でタクシーに居られ 親切に取扱れて そのまゝ労せずして
自動車でバンクーバへ来られたのがよかつたと思つた
メーギス号は日本占領軍司令官マッカーサとカナダ政府との契約した
輸送船で戦時中米兵士の戦場への輸送に当つた船であつた 乗組
は総て寝具や食事の世話をしていたし日系二世の若い連中は
男女共によく協力して食事の運搬などテーブルをつくつてくれた
帰還日本人は何人乗込んでいたか私には知らなかつた たぶん
四百人位であつたであらう 而し別に騒ぐどうしいこともなく 相争ふことも
しなかつた 吾々は三三、五五に寄合つて話し合つて船中の毎日を過して
ゐた 皆は収容所の話や砂糖大根畑の真夏の働きや子供の教育
も正規にできなかつたことや子供達はカナダに残ると云つて親子の意見が
ちがつてしまい子供等をカナダに残して来たと云ふ人も数多くあつた
戦争の後になると日本は負けたと云つても吾々が日本へ帰れば自由な
市民として働けるし食にはそう心配しないであらうと稍々楽観的な
ことを云つてゐる人達もあつた 而し私は敗戦後の日本国民のみじめさを
既にタシーでも聞いて来てゐた 誰れでも祖国に帰つてゆくことの
嬉しさはよくわかる 戦争激発以来日系人の総ての事業と財産
を没収し 根こそぎにし その上沿岸にも帰させず 土地の所有も認め
ないと云ふ 自国であるべきカナダが吾々にこれから先きなうん困難が
あるものと想起されてゐた時でもあつたので 吾々はたとへ敗戦国で
あつても我が国程たよりになるところがないと思つたことであらう

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
9-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections
University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
2-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
8-12

39

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections
University Archives

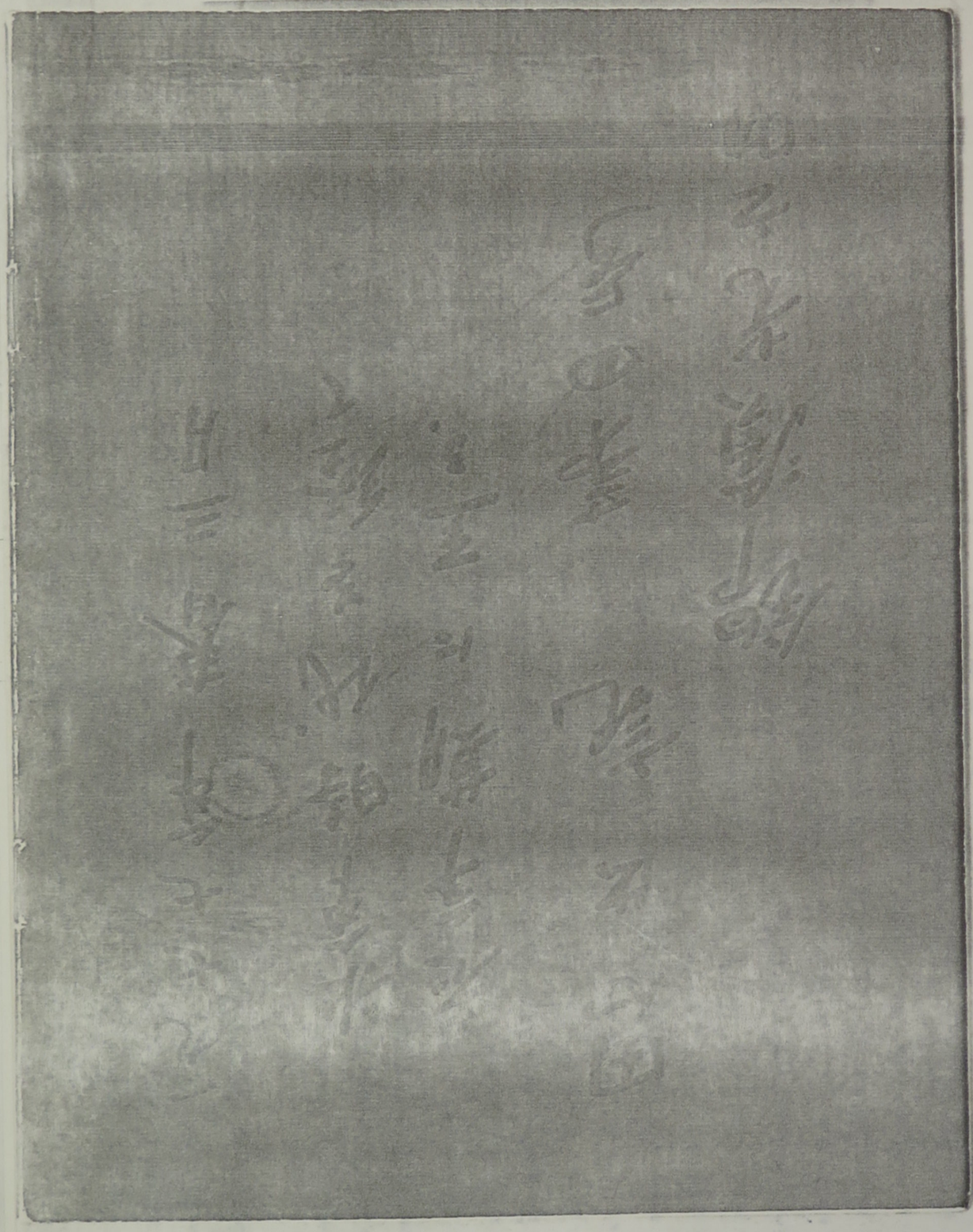
[illegible] no ki, Dai 4-go: Sōnen jidai o hete
Rōnen ki ni itaru.

(My reminiscences, no. 4: Youth to Old Age)

by Kōnosuke Nishikihama. Drafted in Spring,
March, 1977)

Page 1 - 43.

Sept. 7, 1981/tg



Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.
0-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
8-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections
University Archives

食糧不足の折ではあったが 甚は何がなくてもと実の間に通じ 私等は船長や実姻兄に話して夕食をつくって一酒差し出した その時には春代の嫁入り道具が飾られていた 船長はそれに目をつけておめでたいお祝いがあるのかと尋ねてくれた 私共は実は姉の娘が嫁入りするので 明日は荷入れと共に結婚式をすることになっているのだと話した。船の連中は僅かな食事であったが心よく食してくれた そして船長は芳治に姉の結婚であればこのまま家に留まって式に出てお手伝せよ、そーれ船が東京をお発する日迄に東京へ来たらよいと言ってくれた それで芳治はその時から下船させてもらって荷入れの手伝いをして二三日休んで東京へたった。

春代と結婚した忠蔵は日本海軍に務めていたと云われて艦船は 日本政府で海軍は自由にならなかったが 彼は由良港の海軍倉庫係として毎日勤務していた 後春代を連れて神戸の海上自衛隊に行き それから横須賀、呉と各軍港の基地に住居し 海上自衛隊の軍艦に乗り機関長を務めた。

前掲の前書にも述した様に 福武先生がアメリカ村実態調査団長として三尾に来た頃は 紀伊水産株式会社が創立されて二年目頃であった。この頃占領軍司令部から日本の改革を進める政治工作が打ち出されていた。私共に最も関係した政策は農地改革であった 従来の地主が自分が耕作せない田地をそのまま耕作者(小作人)に譲り渡すことであった。私の家も四段余の水田と畑地三段程は私の不在中小作人に頼んで作ってもらっていた 占領軍が全国的にこの政策を市町村に布告してくると云ふことを知っていたので この命令が出てくる以前に 私は私の田畑をそのまま、戻してもらふ交渉を進めていた それは私の小作人数名の人達に 私が帰ったら直に戻してもらふと了解してもらっていたものだ

即し その頃の食糧不足と云ふより食糧難はなま

やさしいものではなかった 一坪の土地でも耕せる人でも作って配給米の不足のたしにしたいと誰でも思っていた折りからであるから そう容易に戻してくれなかった 私はこれ等の人達に熱心に頼んだ「私の今の大家族では配給と云ふ或る時は二週目も一ヶ月も遅配になる時もあったので 伍五次郎の約束通り今私が帰ったのだからすぐに手渡して欲しい」とせめよった 彼等はよく判ってあっても仲々承諾の言葉がでてこない 私は策を弄して一人がよし と言ってもらへる人から攻めてかかった 彼は「あ!! わしは戻すよ」と言ってくれた そこでその次ぎの人に「彼はよく戻してくれることになったので あなたもどうかそれに応じてもらふ」と強気に出た こうして私はこの法令がでてくるまえに大体の田畑は戻してもらった この法令は今迄耕作していた人が一段歩七百円位で買いとることでその田畑は完全にその所有者がかわってくることになってあった 小作に要求しても戻さないと思えている小作人は地主の方が困っていても「これは政府は私共にあたへてくれるものであるから」と絶対と言ってよい程頑固であった それには人情も義理もなかったのである。私の一件についての話だが「私共はあなたの土地を自分のものにすると云ふのでない 今迄作ってきた畑は今の時私共の家庭に大きな救いとなるのだ 食料事情がよくなったら戻します」と言ふのだが この法令の下で満一年でもそのままに作らせておいたら自然に政府はその作っている人の名儀に勝手に登記変更をしてしまふ 畑が危険にあった それで私はこうしたらどうかと一策を案じ「現在あなたが作えている畑は一応私の方に戻してもらふ その代わりその敷地に相当する現在私等が作っている畑を暫くお貸しする その畑はあなたの家にも近いし便利だ」と言って納得さして こんどは貸借のかたちでこの耕を解決したこともある 戸数の中でも口ではうまく言って戻すと言ってくれ 拘剰作時になるとなんとか文句がついてくることもあった そうした時は私は「お前がそういって戻しますと言ったのだから 明日から牛を入れて

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Manoa

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Special Collections and University Archives
Rare Books & Special

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Special Collections and University Archives
Rare Books & Special

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

[illegible] 注射 [illegible] 日 [illegible] 日 [illegible] 手術 [illegible]
[illegible] 用 [illegible] 医 [illegible] 昨 [illegible] 手術 [illegible]
[illegible] 注射 [illegible] 医 [illegible] 昨 [illegible] 手術 [illegible]
[illegible] 用 [illegible] 医 [illegible] 昨 [illegible] 手術 [illegible]

町は一面に水に浸されてしまい、吉原も毎年なければ御坊に行けぬ程な大水害となってしまった。近隣からの救助がなく、後の事業が村債として残されてゐる。その額は実に木祝が村民納税は妙何、村有林は水害後の工事に多額の借金をしていること、二には大和紡績を云ふ大きな会社があり、この会社が村税の大きく負担してくれていること。このまゝわれは他村の視察と安くつくなど村有委員の人が言っていたこともあった。若し為て三村合併が成立して町方を中央の和田村は決定し、町名を選挙し一般村民大会を各村で開催してそれ〳〵認可を求めた。各村民の要望にこたへて、町名を美浜町と命名し、町長には和田村鴻川忠一氏を選任して一応の陣容を造り三村々会議員はそのまゝ町議会議員とし三度より田中元吉氏が議長職につき助役は和田の小川太吉氏収入役は初瀬村の[illegible]氏が各村の一番古参を和田役場に移して査定調査を始めたところが合併当時各村長収入役の公認とは大きくくいちがったものがでてきた。最たるものは村有林の財産が復雑になっていた元帳方で計画を始めたべらぼうの収入役は五十二年に月をつけて調べ出だら村債は多額に増し村有林は従来希望をふせて第気よく運営していたことになってゐた村長金平氏も自から驚いていたが役所の錯把がなかった。村有林は氏も大いに認った。赤字千八百[illegible]万円。その中風水害復旧工事前受金もあったが役所に合併償還するものを差引いてもどうしてもはっきりせない金は六百万円に昇ってゐた。村は三村合併してしまつて特に香方をどこに設置するのかと言ふことも各村民の便利など考へて如何ではなうなかった。私も三度村決会人の一人として三村合併すること言ふ原則を確認し合いそれから各村の現在の財政指態を公表すること村有山林土地の面積、課税の実収の額に責任者が落にかゝれてしまったようなものもあった。

先年三尾には旧小学校を合併村債（借金）が二億円になっている和田村でも水害後の事業が村債として残されてゐる。その額は実に木祝が村民納税は妙何、村有林は水害後の工事に多額の借金をしていること、二には大和紡績を云ふ大きな会社があり、この会社が村税の大きく負担してくれていること。このまゝわれは他村の視察と安くつくなど村有委員の人が言っていたこともあった。若し為て三村合併が成立して町方を中央の和田村は決定し、町名を選挙し一般村民大会を各村で開催してそれ〳〵認可を求めた。各村民の要望にこたへて、町名を美浜町と命名し、町長には和田村鴻川忠一氏を選任して一応の陣容を造り三村々会議員はそのまゝ町議会議員とし三度より田中元吉氏が議長職につき助役は和田の小川太吉氏収入役は初瀬村の[illegible]氏が各村の一番古参を和田役場に移して査定調査を始めたところが合併当時各村長収入役の公認とは大きくくいちがったものがでてきた。最たるものは村有林の財産が復雑になっていた元帳方で計画を始めたべらぼうの収入役は五十二年に月をつけて調べ出だら村債は多額に増し村有林は従来希望をふせて第気よく運営していたことになってゐた村長金平氏も自から驚いていたが役所の錯把がなかった。村有林は氏も大いに認った。赤字千八百[illegible]万円。その中風水害復旧工事前受金もあったが役所に合併償還するものを差引いてもどうしてもはっきりせない金は六百万円に昇ってゐた。村は三村合併してしまつて特に香方をどこに設置するのかと言ふことも各村民の便利など考へて如何ではなうなかった。私も三度村決会人の一人として三村合併すること言ふ原則を確認し合いそれから各村の現在の財政指態を公表すること村有山林土地の面積、課税の実収の額に責任者が落にかゝれてしまったようなものもあった。

Nishikihama, Konosuke
Folder no. 0-12-
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections
University Archives

Nishikihama, Konosuke

そこで旅券は一応するが君は日本国籍であるのから直にこのオリジナルの旅券を提示して果たして日本旅券をとり協国際的に認められたる旅院にて身体診断書をなし日本旅券と身体診断書を添へて在京の大使館に出頭したらよいとのことであった。私は次前（戦争前）カナダ移民者をもってゐたが日本へ引揚る時にバンクーバ移民局でこの市民証は戻して行けと云はれて渡して来た。私はその市民証を再発行してくれるものだと思ったのであったが残念引揚げた帰化人は完全にカナダ市民権を喪失されているのである。私はきりとしれることが知りたいと思って直に上京わざ大使館へ入った丁度多田氏が事務をとってあった彼は私をよく知っている。二年の歳月に関し三度カナダ（往復）渡航合を決成して以来何回か大使館に出入りしていたからだ。多田氏は私に「あなたの手続きの方が早くせなければなりません（ままの方は何時）ことになるのである。

カナダ三菱連絡協会が発足してカナダ各地との連絡をとり一、あった最も多数を送出したのがトロント支部でマレエルーの会社庭園であり日C州では送船所（日系）農場又はアルバタ州等で一〇三名が私の会長期在中に出て行った。その手続きは東京カナダ大使館をとほしていた事務所へ入って居た。その手続きは東京カナダ大使館をとほしていた事務所へ入って居た。私業慶次郎氏に会長をわたした一日加私も渡航の日せまったので

私は御国に帰ってから（引揚げ）佐倉市の委託人となり、お茶の会計をすることを頼まれ、私仕事して退職お孝様代お孝人（婦人）達が集って主旨な運動会を催してくれて嬉しかった。この時先きに渡航していた川端弘吉氏が三尾村人会の残餘金壱万の時三尾公民館建築費として金額を連絡協会（責任者鈴木俊雄）に送るときまり私時氏は佐倉市役所より支出する筈の壱百万円をその中より支出して呉れる様申込をして呉れ百万円はお孝に送られていた。私はこの会はお孝様改築費として特別会計としていたものをよく説明して役員にも了解してもらった。登記にもかかわる三尾村人会の残餘金は御国に送金されることが遅れ私がかわった為中に村人会役員に依て決定されていたのが帰って三尾村を懐会役員となった事でこれが受入れ方について村役会協議会で公民館を旧小学校跡地を拡張して建築することを決定して連絡協会よりスプリストンの三尾村人会長宮下巌氏宛に報告していたその指村人会の連絡協会を通して四千有余円の金が送金されていた。これの詳細な事情は私の三尾村人会と力を合わせ連絡協会と云う記述の中に書き残されてある。

私の役員期に入ったが人手不足であったが伯母（ハナノ）はよく働いてくれた私は判りかねる秘策を以の御座に接込むそして一日も早く要望してやかなければ波光の白壁に差しつかえてくるのでそれをミになったう直く手して参加（開）と契約して毎日のように星のほかに特別に照ってもうって九月次第十月初旬迄に完全してしまって現金とした。そ十五万円位しかなかった。私は日台連合が出来する迄隣の店も紀水が為に借りていた物品代二万五千円は如何しても払わねばならんと思ったが隣岡志ことであるから清算して掛ってやったらよいと云って二の末の金から

支払ってもらった。こうして私は引揚げ後三尾の生活の設計の数々の心配事の数々を経験しつつ苦闘したが人皆とし社務人とし鈴隈家の名誉を保つ為いも出来る限りのことをなしてきたそして十一月に入って家を閉じて祖戸隈より水川丸に乗込んで一路カイタへと旅立ったのである。一九五六年秋深くなってきた五九歳であった。

老年期

水川丸の航海は晩秋と云へ共割合におだやかであった。中野君の娘の幸恵ちゃんは私の室にきて歌をうたふ何百となくへられる歌をベットの上で二人でうたってくれて航海中私共の慰めとなってくれた十一年振りでステプスンに帰って来たう第一に待っていたのが芳治と西田照子との結婚式であった。彼等は婚約中であった私等の帰って来る日を楽しみに待っていたのであり又私が来るとゆふことで林大津君等が私が帰ったら又漢薬を始められるとのことの前提の下で芳治がスクーターにキャリに家を借りていた。会社の方では芳治が父の協力を得て漢をすることにかを入れてくれていた為だ一面台湾に結婚式を挙したそれから会社には事務より出漢させる為に先ず漢医を買い求めさせると云って適当な船を私と一つれて上陸方面まで見に廻って来たが思う船がなかった。そこで林君と古谷君とところキナリーでは新船を造ってもよいと云ってあると云ふので私等は中古造船に行ったがその時造船所と注文が期日一ぱいでつかへていた友人坂本卯吉が君の方が是非求めなければならんと云ってあったら私の手が注文してある期日をおまへ等に回してやるわしのほは造ってあるからと云っていたが今古舟を持ってあったのだから漢に着しつかへない

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 0-12-
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

24

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections

28

ゴードン氏にこの話をしたら彼も喜んでくれた そして之れ迄働けなかった損害を請求するにキナリーの網の仕事をして一ヶ月六十弗だけ働けるのだとの証明もしてやるから明日からでもキナリーに働きに出てこいと言ってくれたのでソライに働いてみようと思って出て行った。それから十月に入る迄適当た網の仕事をした（一九五九年十月十八日の記）

ウオーカ弁護士に依頼した請求書はその後ゴードン氏の支援と共に迅速に進められていたことが土日によく知ることができた そとく この賠償要求は自分として不当な請求をしようとは思ってゐなかった 先ず保証してもらいたいことは医者の支払については多額になるであろうか 今日自分はそれを支払ふ能力をもっていないので心配した 其の他の病院費諸雑費又去る一年以上入っての何も仕事ができなかったこと 精神的に享けた打撃については弁護士が考へてくれると言ってて先方がはたしてそれ程の責任をもつかどうか（保険掛金額）知れない もしないとしたら気の毒な保険会社がどの程度で話を解決しようとしているのか アジャスターのトムリチャド氏は私が初めて会った時から公平な立場で話をしてくれていたので勝手なことはすまいと思っていたし自分もこれから裁判されるまでして高い引に押すよりスムースに協調的にして欲しいと祈った こうしたことについてはお修道は又は語り論気である何も遠慮することはない 一らつるだけちらふ協要求すべきだと言ったが 自分は何事も無理してはならない折檻なることを無理することに依って失態を演ずることがある（一九五九年十二月三日記）

十二月十二日に突然弁護士から電話があり事件は好調に進んだ 自分としては、まあーこれ迄きたことについて満足してゐるが 一度会って話をしてみたいと言って来た、それから二日後に会ったら 既に保険会社のアジャスターと話をとりまとめた それで貴方はよいと言へば是た記載しれと伝へる不満であったら重ねて話合ふがこれ以上の要求は不可能に近い 貴方はその程度の金額を欲しいと思ふのかと言った

29

コステブストンの工場地帯

甚だ突然な話方であるので暫く思案した と言ふのも損害要求は以前から その明細書や金額について その時こちらの意向を聞いてくれた上でとりきめて先方に送るのであったのが 既にそうした段階を通り過ぎていたからである。そこに清水も行ってくれていたので相談した とにかくゴードン氏がこれ位はもらへるよと言って 彼も準備してくれていた（私が同仕事していて十ヶ月余百弗になると話してくれた）金額で話合って 七八千弗のところだと言った。弁護士は既にゴードン氏と打合せしていたのか ここにある明細書は君に六千七百五十弗となっている。これで手をおった方がよいと思ふが 尚三百弗はとれるかも知れないが それもどうかと思ふと言った 最初優先的に医師の支払に支障がない様にと祈った自分の気持としては結構なことだと良い官の幸様苦痛も一挙に忘れた様な気持ちになった ウオーカ弁護士もそれで苦ゝ有のた おまえもそれでよいクリスマスができるでないかと言った 金の受取りについてスピードをこれからかけると言って別れた

それから二週間目に至るも何も通知ないクリスマスも過日に迫っているので清水が電話したら金はもうきているからとりにこいと言ってゐる 早々弁護士の事務所に行ったら総てOK書類を見せてもらった 保険会社よりの支払ひは総計で八千七百弗で 内私の方は六千八百弗残りは弁護士費医者の支払となってゐる 何にしてもウオーカー氏もよかった 自分も案外早くこの事件が片付いたことが嬉しかった 一九五九年十二月十二日自分の誕生日であった。

一九六〇年春から私が正式にキナリーのホワイトマンに雇れ暫くは吉治の家から仕事に出ていた 吉治はしかたなく一人で漁に出なければならないバンクーバーの子供はバーノンドライブのアパートからウードランドの一軒家を借り母にコックしてもらって生活してゐた。その頃長女がキナリーで左手をミシンで巻かれて失った事故があり 私も清三がキナリーの鉄工所に出て行って

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

33

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, University Archives

34

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

35

(Nonaka Yon)

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library, University of Hawai'i at Mānoa

36

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

…ずつなる見込となるので、記して彼等が一日とにて満く限らの賢い
を徹して光の間にあらゆる適当な場を見出して約53という[illegible]
時には光のまゝ[illegible]の場に入る花さえることが最も多い。方法だ未だそ
日下部数馬は常事の件に直面しているのである。一日十日早く
彼出来ないと思っておいた。併し経済の方には現在の位置で自力で
金融をする事が従の全てな[illegible]刑するに依る何事かを言ふしてこそ能ふ行
では一足と云ふ直前刑となっている。特な数金で依为に当てる在数
が多く残したら天刑金は特の常な額になるそれでは苦労すると思ひ出た
お外る隠しうるく押えが十円を出して依为借金に向けなければならら
ない。扱ってく[illegible]華同法してくれ。それは十年を見せしようとい、自分で働いら
こすしでも見られることを今（ているとなって手であった右門日回ってきた
七日に入って徳井藤五郎さんが自分の会社の隣の四人が家を売りに出したから
と話されたのである。よく見てくれたら、相手によると思ふ[illegible]ところでこれを確定して
任せてくれた。六万円程だとなっていたが、それをすれば同じ一坪になるのに狭いな
が、この時は伊田足人がほっていたので、徳永さんはこれを入のということ（確定）して
話せた。隣にその日のうちに[illegible]という伊田足人が、私のところへ来て[illegible]
[illegible]を回してくれとなつかのである。スティストーりーに非常な迷ひが
[illegible]として[illegible]だったがそれは当然だらうか。どうしたものかと思ってみた所
ここで一人[illegible]に話して来てみた。私は徳福につゝては二三人ずつにしてや
[illegible]と言ひ値で一ドルをいたが、自分一人では実になく気付かない。
[illegible]事にしつゝあった。[illegible]
彼女は[illegible]して居る時に最後的に五万六千ドルとなるといふ先方が強く
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てゆかれるようになってゐた。それでこれらはコレクト・ナンバーで決濟する
手続き様、合わせしに回りのえしー・バー・ガーデンと同じ[illegible]
一つの値にして一五〇〇ドルでどうかといふことであった。僕はそれを確かめて[illegible]
て、孫が[illegible]、そしたら支払ひ金は[illegible]三万ドルの現金をダウン・ペーで[illegible]
く三万六千ドルと雑品一五〇〇ドル三万七千五百ドル 合計五万七千五百ドルと
なった。その日の事務所から弁護士に従ってもらふことにした。[illegible]
なので一応はその時に借りるとより、四月[illegible]日付で支払手続きを済ますことで
あったが、私は以前から話三が持ち[illegible]おられてあり帝地を回って[illegible]
ふ為その後移動する。私が期待していた金より稍々少額だったのである
ことが、八月廿三日にそれ[illegible]私に契約手付金を私から百ドル支払った時に
わかったので、バーとリカー・バーズ・テファニーの男[illegible]この際協力して貰ふ
支払して[illegible]くれ、バーは五千ドルを彼に貸して[illegible]ということである
契約書に従ったら私の方は借金をするのでまずことができぬ。と[illegible]すると
方所った。その時何三千ドルの現金を父の[illegible]としてあったので直にそれ
つ三百ドル出来して[illegible]速達した。彼は後三と[illegible]信じていたのが
廿八日の支払期日に遅延した[illegible]それで三万ドルの現金は見通が[illegible]
見通が[illegible]別に法律[illegible]をする様にはなったので、結局としたお金に[illegible]
合はなくてゆかぬと気持ちが[illegible]にゆくのであることを、私は信じ[illegible]
はっきりわかった。昔しここに親が来ていたらゆかったらなかったが主体となって
こうした重大なことを真剣に思ひ悩むことの出来るもの[illegible]があるか
妻京子の心を待っているとの[illegible]観てしかもそのた[illegible]私が遅しかったことに
とは酒井得る婦が毎日忙しい中でも私が彼を父亲と思って時はすで
すてられた話三の為に代理的な役割[illegible]を果してくれたことや[illegible]
よく尽してくれた。こうした[illegible]はまた後に[illegible]
一応は[illegible]説が[illegible]した[illegible]それが[illegible]人[illegible]話三[illegible]に一千[illegible]から

Nishikihama, Kanosuke

こんなアパートに移って来た 初夫人は自分達が總ゐを挙げた
家であるそれ迄 沿う家が帰ってくるとは勝手にその家に入うなかった
役者は一先ず初芽の住居に落着いて それから移り住むことになった
初夫も共にこの家に同時に移って来た、 輝美子は沿うがパニクリーパー
に住居する方が仕事のことで都合がよいのでないかとも考へていたが
たが 今日便利な時代となっては どこに住んでも働きに行ける。
特にリクエレードは住宅街として毎年の如く大きく成長が建築
されパレクーパーのベットタウンとなりつつあったのでここで仕事を
すれば通勤に見合せるものだと私は考へていたし私の知人にも沿う
が多う働くのによいところあったら再話してみてくれと頼んでみた
リクエスト市役所の街樹がリンデンであれば同じの人が必要で
あると同じ役は市のパークボードに仕事口を申込んでいた翌年
末には仕事に出てこいと通知があった それ迄家は定期的
な市の仕事ができる様になり今は気楽に働いてゐる。

終

人生は苦脳の中にたと言ふことは常に聞いてきた それは精神的
苦脳もあれば肉体的なものもある 私の一生涯はこの二つながらの苦脳
連続で今日に至ってゐたと言へる 幼少より虚弱な生れつきの私は
大きく育てやく過程に於てもこの二つがつきまとってきてゐた その最も
苦難業席であった時代は錦浜家を相続することができまって自から
重大なる責任を感じ始めた時からであった 長い期間の病癒は消
耗されるべき私の青年期の意気を消滅させていった或る時は自から
絶望感におちいれられる事迄考えたとさえ思われたこともあった
もし自分は普通の青年とはことなり両親が親歎の興望を一身に集
めて錦浜家の再興隆昌をなし遂げてゆかなければならん 特に
長女と言へ共、若くして同い征伐し次て大いに立上うなければならん
私が祖先より、我が慈愛深き母より 言われをして再び立上らせ給へと懇切
こめて祈ったのも この時であった 自から日徳の報念を排して一心こめて
病癒と闘ったことは詳細に記述してゐる 斯くてよう々く健康を回復
したが 実に小心怪なる心の苦痛であった
その、伯結婚したのだが この結婚も私一人の意志に依ったものでなかった
昔からの因家として その家にふさわしい者をと言ふので親族会議まで
私の意志表示両親のおもわくなどとり入れ沢て伯父母達が相談う
協議を重ね初めて嫁となる候補者を四名迄きめていた 今日のごく二人
の恋愛関係を中心とした結婚は許されなかった時代であった
その候錦浜本家には代次ぎのよかなかった 祖父母には八人の子があった
彼等には大きくなる迄まで教育をさしてもらっていた 私はその八人の孫娘
兄弟の末の女性の側から選ばれたことになっている。伯父母達からは
村内では村長、校長、教師、宮司、漁業会の責任者から祖父は水産課にまで出て勤めていた人もあった 祖父は五代市三郎とあり

Folder no. 0-52-

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Konosuke

Folder no. 2-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections, Hamilton Library

て安全にして正しい住み易い社会に変革してゆく努力がなされなければ
ならない。娘に社会はかりでない、親子教族関係に於ても同じことが言へる
いそうしてお互がより良き理解と容赦をもって指導させてゆかなければ
本当の人間親子親族間の生活が望めない。君しその心もなく
努力することもなく娘自分(個)の安逸だけを求めてよしとする狭き
君はこの母の中では何も必要ない人間と言ふしかない
こう禍が終るに当って私は誠ついに八十を迎えとしている
云に自分一生涯が無経験しなやみ苦んだことだけしかありなかったことは残念である。
もし人生はこの狭なものであったのかと深く思ふとこの禍は現した自分は飽りに正直すぎる
とも思われる。善き達者であってくれて今日(こ)の如く暖く
見守ってくれたらと尚一つの恩もある。これは仏のお召しにまつしかなく祖先の命令でもあるかも知れない

Nishikihama, Kanosuke
Folder no. 8-12
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Kanada Mio Sonjinkai to Mio Kōminkan(Canada Kan)

(Canada Mio Villagers' Association and Mio Public Hall (Canada Hall))

by Kōnosuke Nishikihama. Drafted in Dec., 1958.

Page 3 - 40. (Note: There is no page 1 - 2.)

Sept. 7, '81/tg

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

Nishikihama, Kanosuke

Folder no.

(1)



Canada Kan
memorial photograph
march 29th 1957

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION



一九五八年三月末　　鈴渓老之助

カナダ三尾村人会の設立されたのが一八九七年（明治三十年）と云うから今から六十年前のことである。そして六十年後の今日この村人会の遺産は御覧三尾にうけ継がれて三尾公民館（元カナダ館）として三尾地の中央にモダンな文化的建築物としてこれからの海外進出の青年道場たらんとしてある。そこで私はここにカナダ三尾村人会とこの公民館について自分の知り範囲内で自分の思考を加えて書いてみた。

随下カナダ三尾村人会を村人会と略称する。

今年はカナダにとっては開拓以来百年に相当する二の百年祭はカナダ全国を中心として盛大なる祝典が行事がくり拡げられた。日本からも訓練艦練習艦日本丸海上自衛隊等がはるばる（うるわしの二艦が日本からはるばる大平洋を越えて二祝典に参加された。又日本独特の花火はバンクーバの空を飾り各地のその美観は数万の市民を喜ばし　切きかえうしえもの。百年の昔とえばビンソンバーは大伐産業地帯の一寒村にすぎなかった。今のバンクーバーも大平洋に面した深林

○一八八七年（明治二十年）三尾村（としてこの未開の地に初めて鬼を踏入れたのが即ち三尾無衛門翁である。村人会設立当時をかくには先ず三尾と並ぶ様に名高い熊野村について知らねばならない。

三方山にかこまれ南に入江をなす三尾としては昔から新しく開墾された畑と海において漁業をもってまかなわなければならなかった。そのもこの海面も急度か四隣の漁夫には荒されて計画にもつぐ計画を樹立されたが度々紛争が海外事件の失敗にかんがみ当局が発して漁民の権利をうばうような一切の規約について私の伯父奥山静雄（能登半島の司）は左の如くなき際私は当時奥山陸雄（現三尾公民館主）より文面を以って得られたものの一部を記載してみる。

本村は専ら漁業に次ぐ生活状態は至って少し　古くは遠

Folder no.
O 13

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

3

カナダ三尾村人會と三尾公民館（カナメ館）

一九五八年十二月稿　錦濱光之助

カナダ三尾村人會の設立されたのが一八九七年（明治三十年）と云ふから今から丁度六十年昔のことである。そして六十年後の今日 この村人會の遺産は御国三尾にうけ継がれて三尾公民館（一名カナダ館）として三尾区の中央にモダンな文化的建築物としてこれからの海外進出の青年道場たらんとしてゐる。そこで私はこゝにカナダ三尾村人會とこの公民館について自分の知る範囲で自分の思考も加へて書いてみたい

以下カナダ三尾村人會を村人會と略稱する。

今年はあたかもカナダ・ビーシー州は開拓以来百年に相当する この百年祭はバンクーバーを中心として盛大なる祝典が行事がくり拡げられた 日本からも商船学校練習船日本丸 海上自衛隊群「はるかぜ」「うらなみ」の二艘が日本からはるばる太平洋を越えてこの祝典に参加された 又日本独特の花火はバンクーバーの空を飾り毎夜のもの美観は数万の市民を喜ばし わきかえらしたものだ 百年の昔と云へばバンクーバーは大森林で雨でも何も見るべきものがなかった 今のバンクーバーも太平洋に面した深林地帯の一寒村にすぎなかった

一八八七年（明治二十年）三尾村人としてこの未開の地に初めて足を踏み入れたのが即ち工野儀兵衛翁である 村人會設立当時を書くには此の翁 ここまで遡らなければ誰の脈絡にもならないのだ 氏から翁は近親者や村の若人を次々とこの地に呼寄せた 今日アメリカ村として広く世に知られる三尾をなさしめたのである

三方山に囲まれ南に大洋を望む三尾としては昔から耕すに田畑少なく しかし村民は海に出て漁る業をもって生きねばならなかった しかもこの海面も幾度か四隣の漁夫共に荒れて[illegible]を操返された 丁度工野翁が海外雄飛の先駆となり[illegible] こうした中[illegible]が発生して漁民の根性を[illegible]若者の根性について私が伯父[illegible]（現三尾公民館の[illegible]）は左の如く書き残してゐる

私は多年関山隆雄（現三尾公民館主）より文目に依って得たものである 特に依文とまで記載しておく

香林は専ら漁業を以て生活し純農は至って少なし 古くは遠く広總地方即ち

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Folder no.

Nishikihama, Kōnosuke

01

Nishikihama, Kanosuke

[illegible]
引揚当初未曾有と称せられた数年を経過して今想えば当然の事に過ぎ引揚者必ず引揚者にもその例にもれない今その中で唯一壮大な建設事業があり、それは報恩会設立、地元協徒も努力したがその資金の大半は海外在住者の善意に依って建立されてある村の集会を必要とする時はおおいにこの会堂を利用借用してなるべくお金は村の共有物でなく協徒のものであるから勝手に使用できない、お金で都合の悪い時はどうすることもおおない、仏帰に不便なことが多いことであったと思う私の思う処に「資金は村政政府にたとえても村民集会施設の一つ位物とのなる筈なかったかと考えにも増して青年修養道場位村民の総意でできなかったかと思われる青年を海外に送るより政学にむしろ暮し向きこれからもそうした運命にある村としたら一層この方面に努力されてここそ三尾は立派な村として芳しかったと思われる村の有識者村の為の総意にそれの関心のなさすぎるを歎かわしくはなかった

村政会の重役と座談会が始まった そこで私は先ず公民館設置の必要性を述べた それには現在の公民館はどうしても公民館とは誰も眼を留めない活合が気持ちがない 夏日蛙がぶんぶん泣いて うす暗いよい気持ちがしない青年教育の会場ではない 先ず3階の修理を要求した 村長よりこれについて善処に考えていたが 之れに関する予算が見出せなかったと説明した 西暗の公民館は旧小学校二教室をその中央板壁をとりはなしたまゝのものであった 青年会加盟現在してあるが 真の青年教育の道場と方向より映画やダンスをやること位しか使われていない 公民館修理実施として三万円を計上協議したが村当局はわりあい予算のつかない事のみ修理したようなものであった その年度内にこれは暖房装置に変かえる事と聞いたが立春の頃に村人合残餘金の還元を受けた戸閉りを直した位であった 残が意を得ないことに思ったアメリカの様なと称せられる三尾加今日迄多数移民を海外に送出している事が探迎レイ一つでもある それ位物を相手の家はとにかく諸れにしてこれに対してもおたがい一つ公共救援物について一考されてもよい 皆一員強で老村及

建物はみすぼらしい私はここにも村人の気概がうかがわれた公民館・学校・神社等その例にもれない今その中で唯一壮大な建設事業があり、それは報恩会設立、地元協徒も努力したがその資金の大半は海外在住者の善意に依って建立されてある村の集会を必要とする時はおおいにこの会堂を利用借用してなるべくお金は村の共有物でなく協徒のものであるから勝手に使用できない、お金で都合の悪い時はどうすることもおおない、仏帰に不便なことが多いことであったと思う私の思う処に「資金は村政政府にたとえても村民集会施設の一つ位物とのなる筈なかったかと考えにも増して青年修養道場位村民の総意でできなかったかと思われる青年を海外に送るより政学にむしろ暮し向きこれからもそうした運命にある村としたら一層この方面に努力されてここそ三尾は立派な村として芳しかったと思われる村の有識者村の為の総意にそれの関心のなさすぎるを歎かわしくはなかった

村政会の重役と座談会が始まった そこで私は先ず公民館設置の必要性を述べた それには現在の公民館はどうしても公民館とは誰も眼を留めない活合が気持ちがない 夏日蛙がぶんぶん泣いて うす暗いよい気持ちがしない青年教育の会場ではない 先ず3階の修理を要求した 村長よりこれについて善処に考えていたが 之れに関する予算が見出せなかったと説明した 西暗の公民館は旧小学校二教室をその中央板壁をとりはなしたまゝのものであった 青年会加盟現在してあるが 真の青年教育の道場と方向より 映画やダンスをやること位しか使われていない 公民館修理実施として三万円を計上協議したが村当局はわりあい予算のつかない事のみ修理したようなものであった その年度内にこれは暖房装置に変かえる事と聞いたが立春の頃に村人合残餘金の還元を受けた戸閉りを直した位であった 残が意を得ないことに思ったアメリカの様なと称せられる三尾加今日迄多数移民を海外に送出している事が探迎レイ一つでもある それ位物を相手の家はとにかく諸れにしてこれに対してもおたがい一つ公共救援物について一考されてもよい 皆一員強で老村及

Folder no.
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Konosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Folder no.

Nishikihama, Kōnosuke

17

12

11

16

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kanosuke

Folder no.

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kanosuke

新町長が就任して旧村の実態視察を行った三尾小学校を含の老朽化を見て三尾は元より近隣校舎をそのままにしておいたのか 私は役目に於して日吹から離れに考へてゐたと云ふ 誠に結構なことを言われる 小学校の老朽化することは旧村当時に既に各も承知し一時修理したこともあるが何百人の大な金がかかるからとして危険校舎として見とめてくれまいかと運動もしたが必ずには この校舎がりっぱなものがあるので仲々易として認められなかった 三村合併に際しては区民の各位皆じょうが多かったが資源を得る手取り早い方法としては これより外になかった 区民も村人合併が近づいて公民館を建てゝ呉るとそふ気持が強かったからだ

そしてかゝる教改築案なるものが現れてからとゝふものは 三尾区民はどうも先に建てるのかとふことで話が落付かない もとより三尾区の身が決定人も賦営委員連協の人達は既定方針を変えつもりであったそれの理由は若しここで公民館が後回しになって見通しがつかなくなる事になったらカナの方に申譯なくなるばかりか色々な疑いを生ぶことになる 即ち隣境界移転問題についても当初の事石は小学校改築案に回すことが区全から提唱されたり 区の相当な理解がなければならない と思われる人達から村人合の金は小学校建築が先きになるとすれば潜く融通してはどうかとそれがなき話もでてくるのである 一日町長は私に言った 三尾は一つも一致していないどうかに何かしてきめてくれよ と私は思った 町長は三村合併協初代町長であるのにこの複雑極りない新町の呼吸を知らないのかなと疑行部の現れの苦脳は如何ばかりかと思った ゆき方がとうれなければ如何に苦んでも話がもまらないであろう

それは先ず三村合併條件の遂行に役がことこそ無難だと考える 即ち是非小学校が先きに建てられること宣明すれば区民はたれも反対はせない 者とも喜んで協力となりれはなろう それは三尾振興の為 こうした移転を速やかにすべきでない 唯建築費用について ごちゃごちゃに考へられては甚だ迷惑を感ずるのであった 小学校はどうしても最初に建築されなければならない 公民館は三尾村人合の記念事業として この際小学校 (二五名の分) その残額金と三尾区の戦後に

Nishikihama, Kanosuke

26 24

…行させなければならない　こうした心がまえからして一晩湯川町長を三度にまわり連絡協会幹部はカブラ尾村人会と公民館建築に至るまでの経過を報告し町長の協議を深く求めた　町長はよくわかったと云ったが公民館については従前の如き町財政ではどうにもならん　今小学校の建築案も直ちにでも君達とケツの穴のおさえることを云はず　大きく出よと云った　小学校一即ち教育の問題　その為めとあふこと村人会の金はその使途のついて考へ直せとあふことにもなる　それは誠に新しくとしては結構なことかも知れないが　今は三村合併の際件も踏まえられ　その上尚新町の都合のよい政策には協力し難いのである　その上県、区、日本各種団体協議会の席上田沼成美校長をはじめ区の有志者の多くが村人会の金は小学校に融通できないかとか　この況ずき村人会の金をかしてもらへない校兒会にもかり共へて欲しいとか陰石後に賢治に立って話しらどがかれた　私は今日に至るこの連絡協会としての声明とカブラ在留会員との約束について話し合いの上に立っての歌あって私共は再びをこして話が海外に折出し後よりも眠不信をかかのみであるから先方この要をう解して公民館建築はこの線に添って協力して欲しいと決意の程を示せば彼等も又しかねないことだとあきらめた　小学校建築を促進させることにしてそこで区会 PTA 有志に依って建築促進委員会が発足して町当局と話合って敷底に、神御起債等について運動が続けられて愚作的なことになって工事が始められた

こうした事情が早くもカブラの方に知れたのか　それから十カブラの管理人から東た手紙依頼の明日を如く即ち前略「御里の結婚運動については私共としても理解出来ない訳ではないが　約束は約束として実行して次きまたんと　新道は別に三角洋蔵にまでんが御外に沿する御里の信用にかかわる事と存じます」とあり強い一本の釘を打たれたものである　これに対し旧村長、連絡協会は明確を返事として協力なる事態に至るとも村人会の残余金は公民館建築次外には流用しないと言先ってあり

7 25

私は思かにも学校建築成った今日講堂建築について御里から再び海外にも音信申出があるも帝かもその予算案をするものが七〇〇万円と云ふ　大なる数字になるので町民地三〇〇万円、三尾を負担三〇〇万円海外からの寄附一〇〇万円とを小学校建築費でもそれから補さすし多い位であったのに一講堂に新築な巨額の金が必要なのかと指を考へさせられる若し要るかの公民館を学校を廷てるとは決して講堂町当局は何故五〇〇万円の予算を欲しなかった勿論当時町財政が逼迫しておるとしても土地と人とがある限りその住は考へ様に依っては何とかなったと思かその当時から講堂は次き事べきものであったおらだその当は町負担三〇〇万もなす気持うれなければそこには主流な公民館と講堂が並立されるかたと思ふ　勿論今日の負担は三尾区には二重の負担ともなるその当は公民館建築について町当局事者はそこまで考へてくれなかったことを遺憾に思ふとその当時私達のそうであったと思かが町当局と小学校でなんでもいいものにせんとした区民の人達と娘自分の近く関係あるものみにとらわれ新築当に考へ将来に及ぼす大きな影響について深考せなかったことも共に残念と思ふ

歳七押つまり柿木村長が昨日中三尾に立寄られ午明けてから連絡協会長に旧村長は共に民と話合い機会をつくった　その時氏は戦後日本を救ったかカブラも大いに救って来るる村人会がクリアカード解散議決を宣言したとおふけれ共一九五三年春私共が村人会の金を引続くまでは仮りつとして処理進行されたもつがなかった二年半月に至って町政府にも報告してないので公認団体として登録漏からも削除されてみた戦時体制牧された会館土役負債料や賠償の要求もせずしてるた公認団体としてはそれ事の手続きも必要であるし公認団体として決算線を明確を期さなければならない管理人としてはそうした義務責任を遂行をなければならない私共はそれ迄と思かした　今日までは決算報告をまとめて仮創立されてからここは御私の国道として御里迄届も完了された　そして私達の義務と責任は終ってる　これからは農立者達が協議されると思かが何分数人限の如かを数して欲しい　そして

Nishikihama, Konosuke

Folder no.
8-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

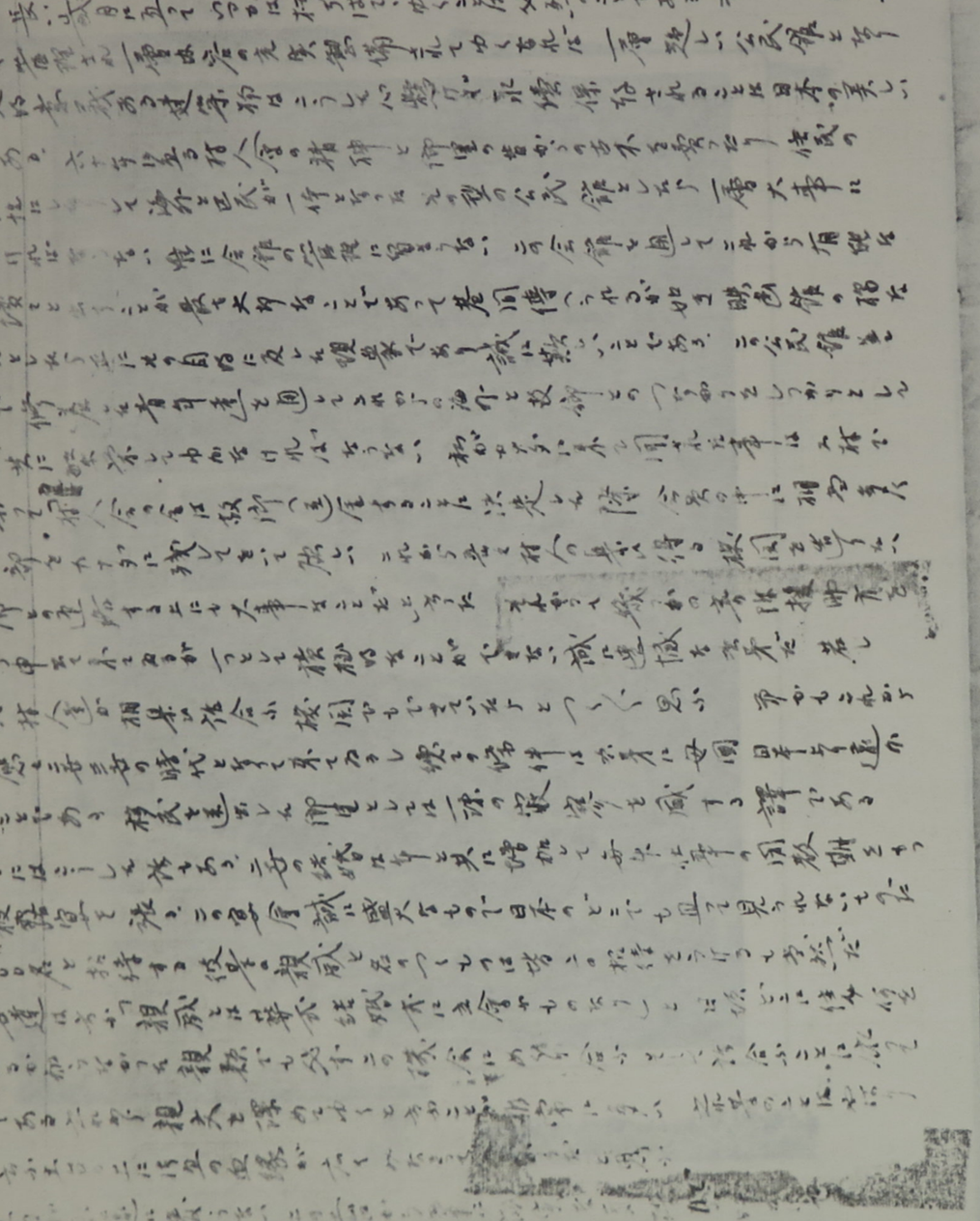
Nishikihama, Konosuke
Folder no. 8-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

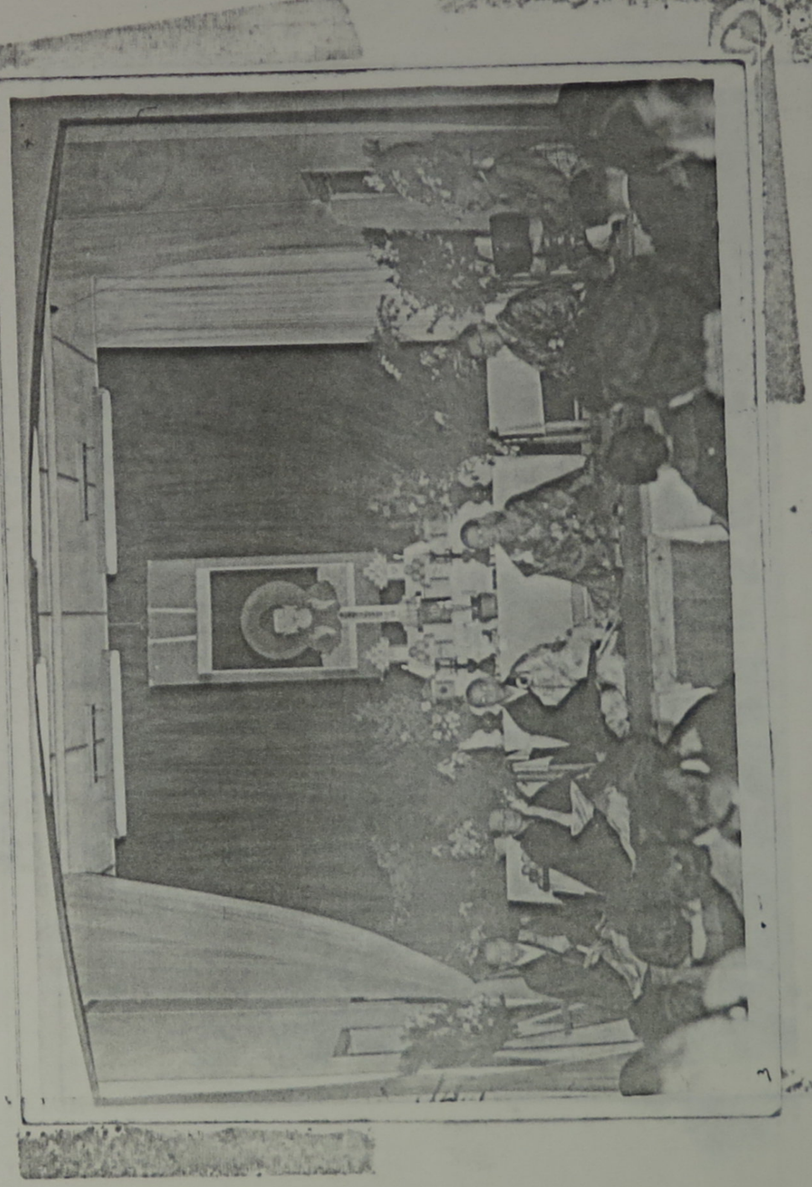
Nishikihama, Konosuke

Folder no.
8-12

30



31



FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION



32
1.



33.

Nishikihama, Kanosuke

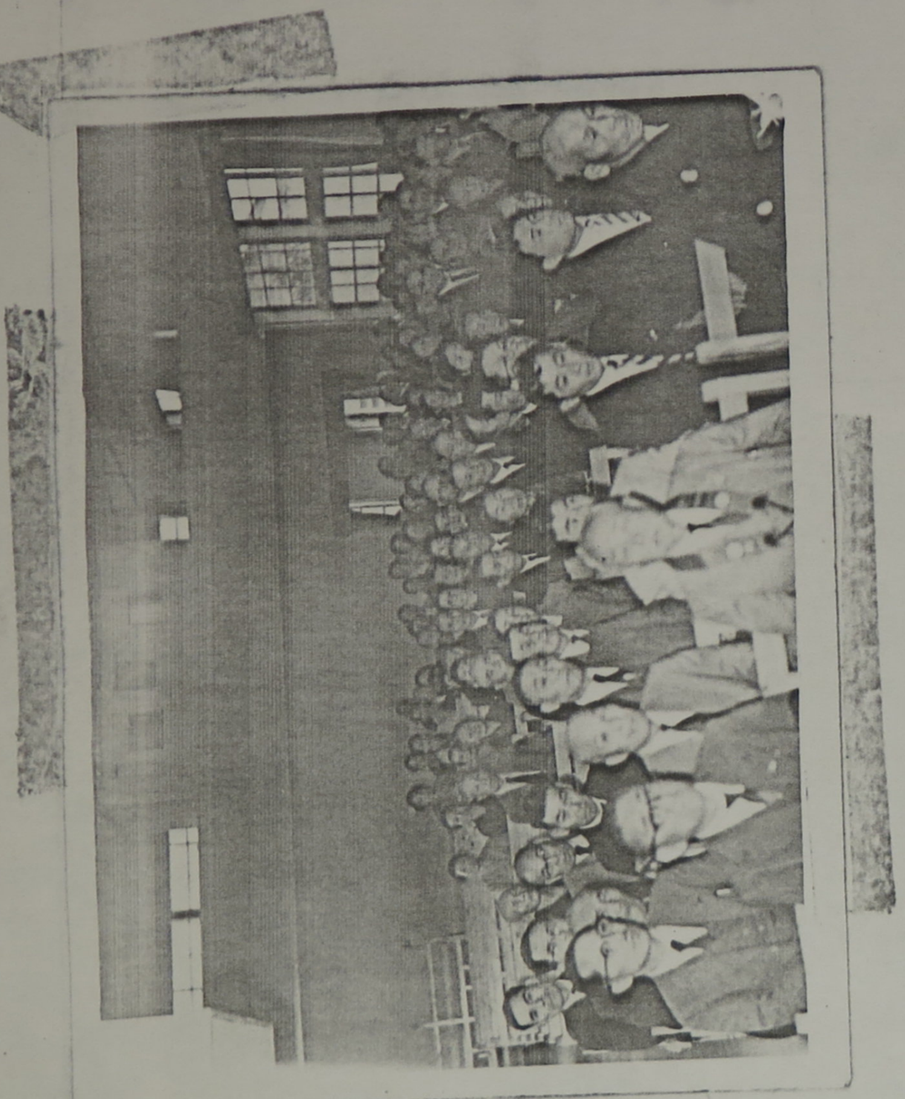
Folder no.
8-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.
8-12

34



35



FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kanosuke

36.



Canada Kan
memorial photograph
[illegible] 15

Folder no.
8-12

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

37



38



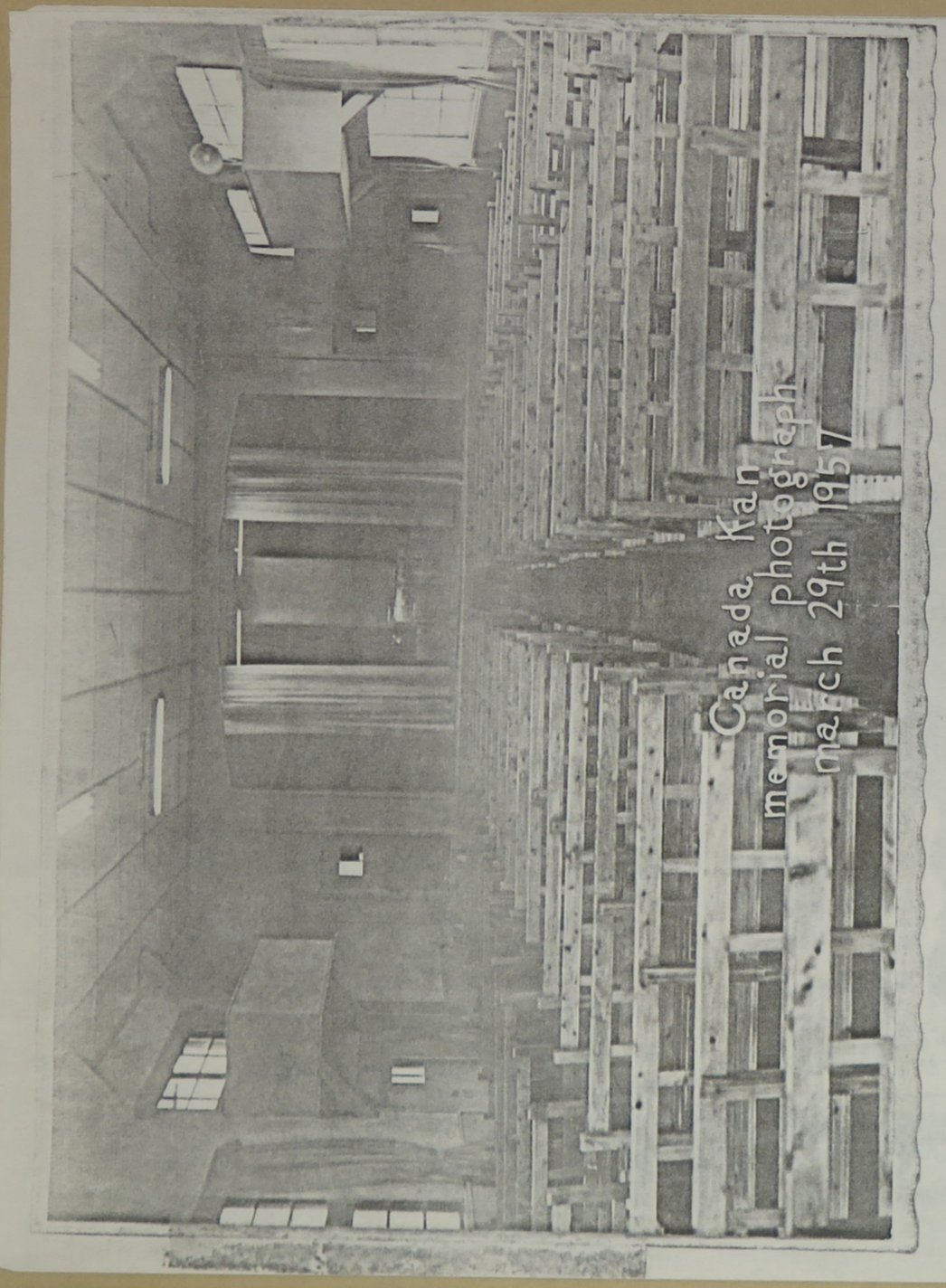
Nishikihama, Kanosuke

Folder no.
8-12

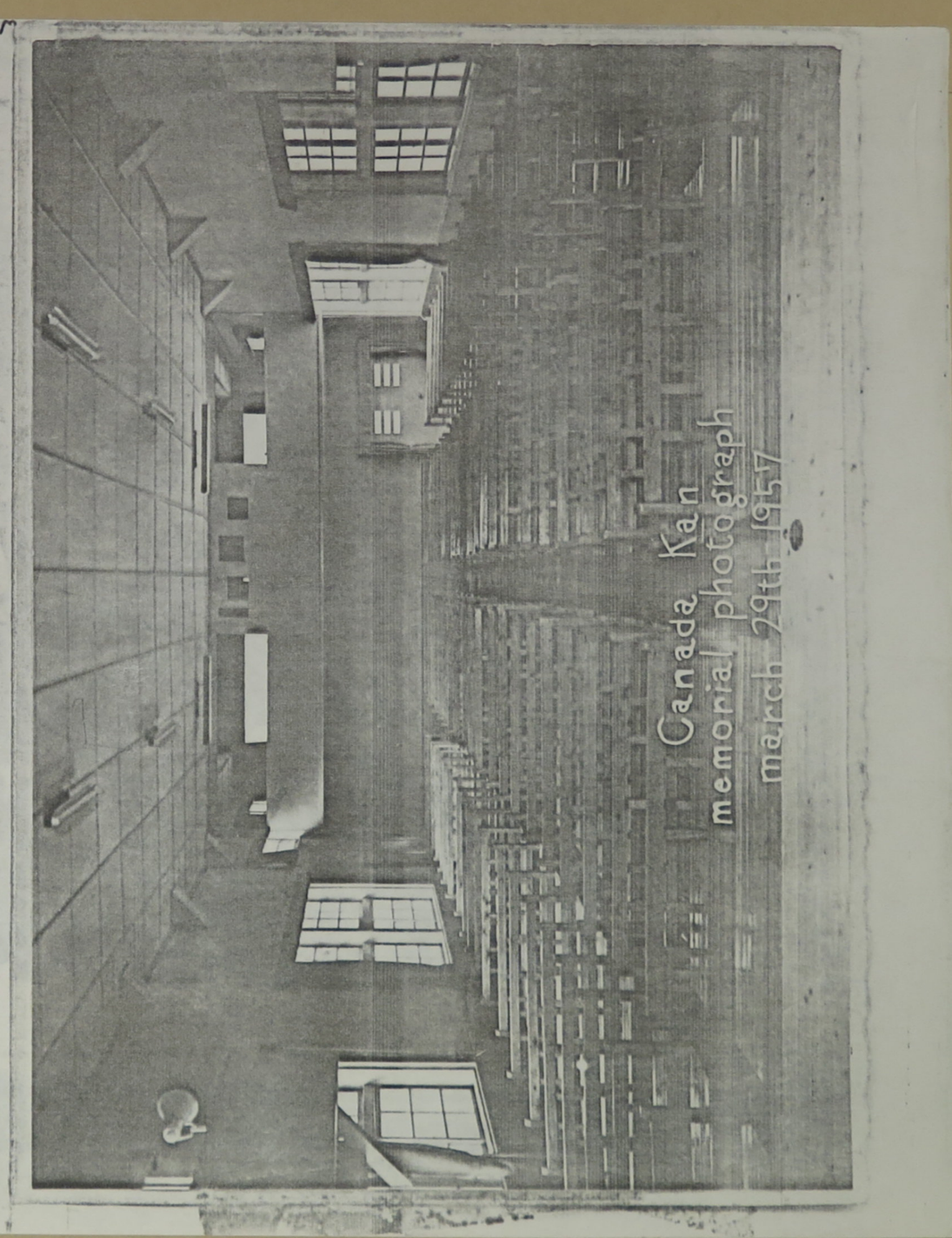
FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.
8-12



Canada Kan
memorial photograph
march 29th 1957



Canada Kan
memorial photograph
march 29th 1957

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION

Nishikihama, Kōnosuke

Folder no.
8-12

40.



40

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION